

中国留学アンケート集計結果

- 留学の目的・形態(Q1～Q11) P. 2
- 留学時期・期間(Q12～Q14) P. 9
- 留学の準備・情報収集(Q15～Q22) P.11
- 入学手続き・現地での滞在先(Q23～Q29) ・ P.15
- 悩みや問題の対処法(Q30～Q31) P.19
- 留学終了後・帰国後の状況(Q32～Q42) .. P.20
- 留学斡旋団体等(Q43～Q47) P.26
- 留学費用(Q48～Q49) P.30
- インターンシップ(Q50～Q55) P.31
- 留学の感想(Q56)..... P.33

注1: 各問の回答を他の回答とクロスして傾向を分析している場合、当該回答を【Q.〇〇】として示しています。

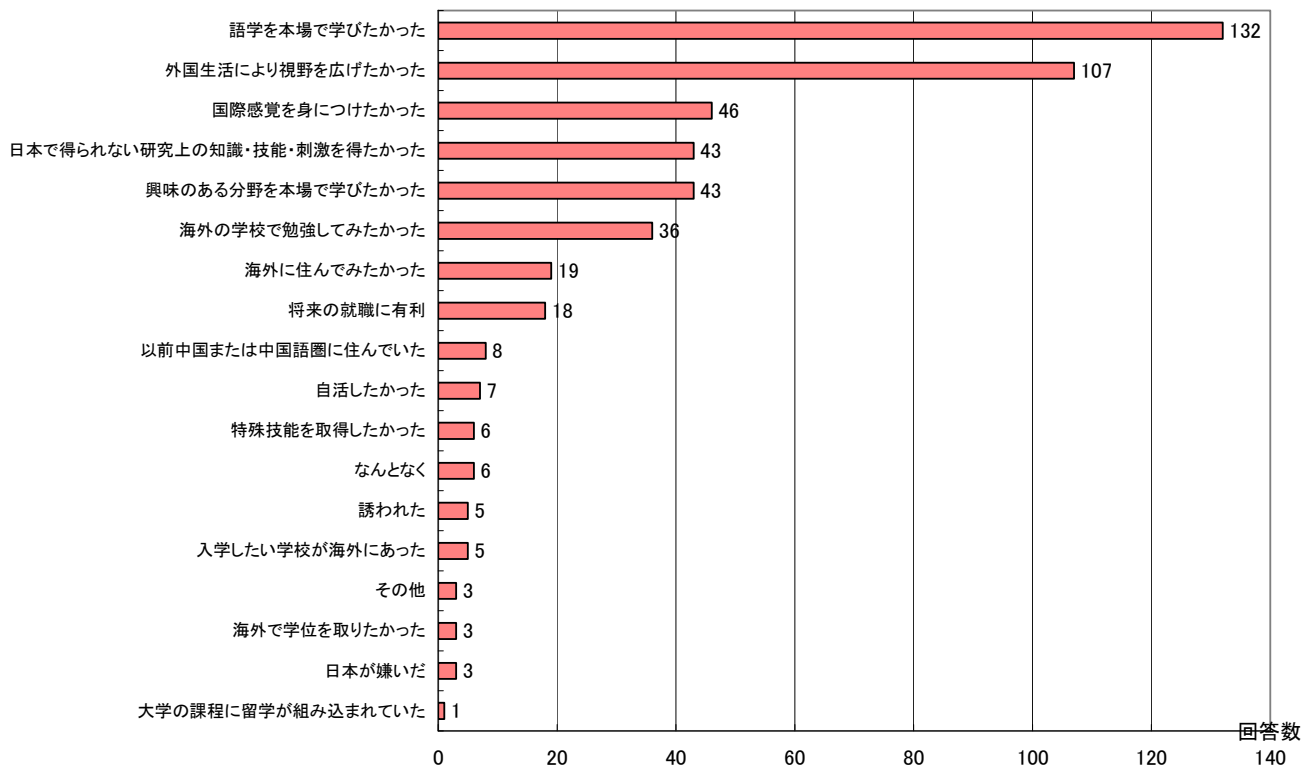
注2: 「★定義」では、本調査で繰り返し使われるキーワードについて説明しています。ほかの設問でこのキーワードが出てきたときも、注1同様、本文の末尾に【Q.〇〇】のように明示していますので、ご参照下さい。

注3: 本集計結果では、回答を多かつた順に並べかえて掲載しています。

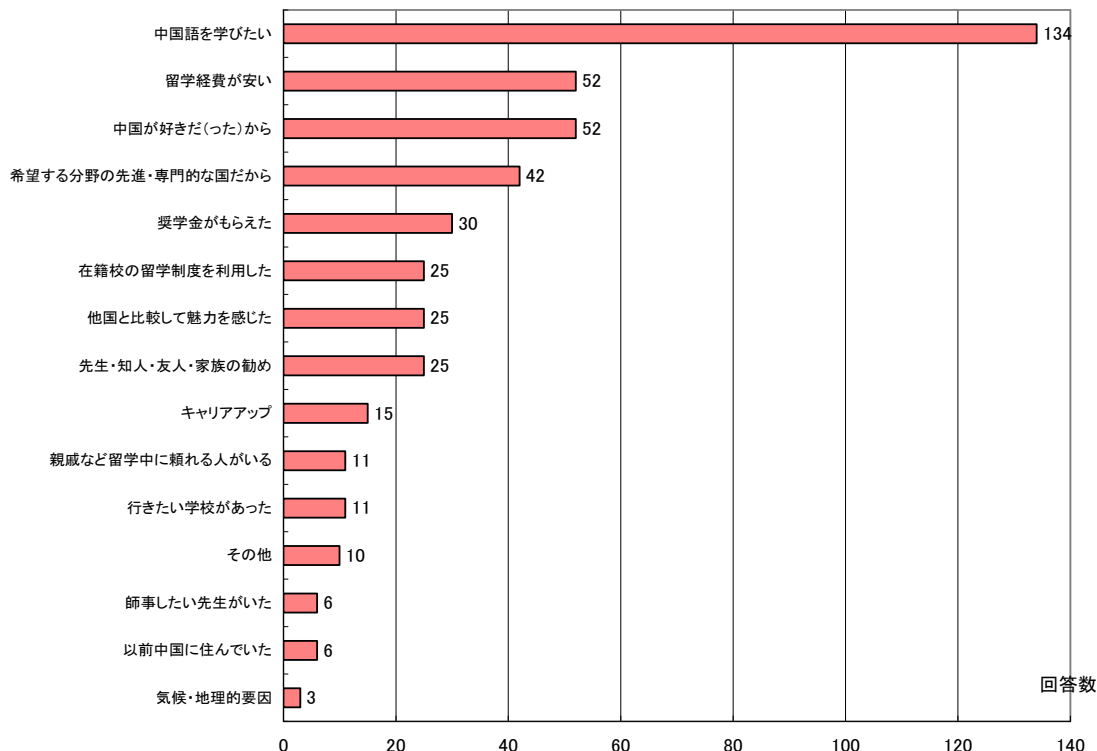
注4: 本調査のアンケート設問の原文「中国留学に関するアンケート」は、
http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi_b.html#_4に掲載しています。

注5: 内容についてのお問い合わせは、日本学生支援機構 留学生事業部 留学生事業計画課 企画調査室
(連絡先は上記アドレスに記載しております)まで、お願い申し上げます。

Q1. 留学しようと思った主な理由についてお答えください。(3つまで選択)



Q2. 中国を留学先として選んだ理由についてお答えください。(3つまで選択)



● 留学理由の最多は「語学を本場で学びたかった」および「外国生活により視野を広げたかった」で、留学先として中国を選んだのは、「中国語を学びたい」と、「中国が好き」で「留学費用が安い」から。

Q1「留学をしようと思った理由」としては、「語学を本場で学びたかった」、「外国生活により視野を広げたかった」が多かった。

以下「日本では得られない研究上の知識・技能・刺激を得たかった」と「興味のある分野を本場で学びたかった」は大学院生に多く見られた。

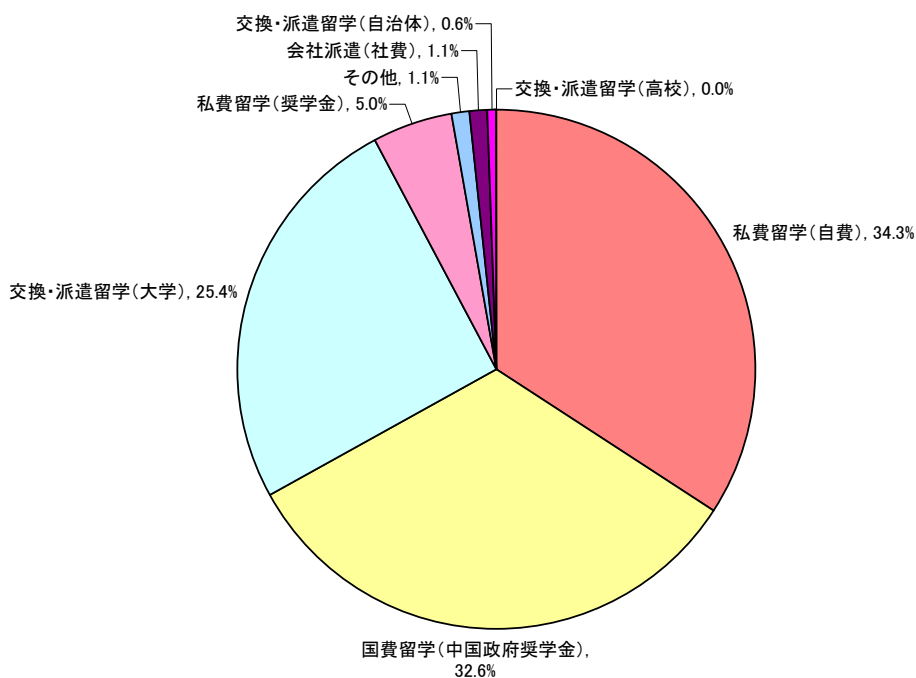
また、「外国生活により視野を広げたかった」、「国際感覚を身につけたかった」、「海外に住んでみたかった」者が「中国を留学

先として選んだ理由」としては、「中国語を学びたい」が最も多かった。他には、「中国が好き」、「留学経費が安い」だからという声が多く挙がっていた。

なお、「留学経費が安い」を最も重視したのは学部生であったが、社会人留学生（企業派遣以外）でも、中国留学を通じての「キャリアアップ」より「留学経費が安い」や「奨学金がもらえた」を重視する傾向が見られた。【Q14】

Q3. 留学の形態をお答えください。(1つ選択)

*日中友好協会・霞山会で募集する公費・給費派遣奨学金も「中国政府奨学金」に含まれます。



●私費留学(自費)は全体の3割強

今調査の回答者は、「私費留学(自費)」と「国費留学(中国政府奨学金)」がほぼ同数であった。

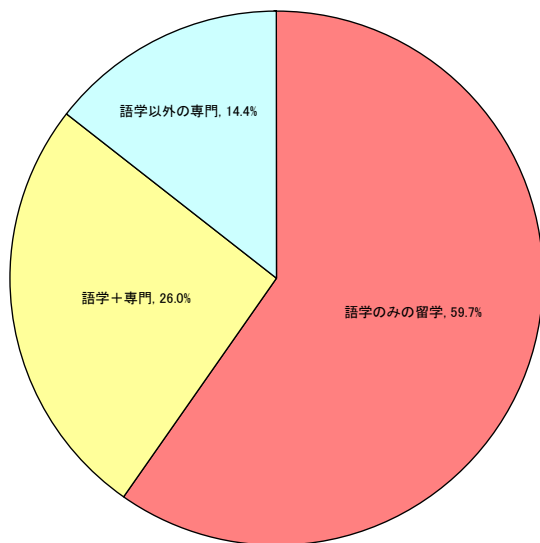
「留学中の肩書・身分」別で見ると、学部生の約4割は「交換・派遣留学(大学)」、次いで約3割が「私費留学(自費)」で渡航している。大学院生の留学は「国費留学(中国政府奨学金)」が半数以上の約6割で、社会人留学生(企業派遣以外)の5割強と「高校卒業後に留学」した者の約8割は「私費留学(自費)」である。また、「留学形態」を問わず、留学期間が「6ヶ月～1年未満」の者が全体の半数で最も多かった。なお、今回の調査参加者に「交換・派遣留学(高校)」はいなかった。【Q3】【Q12】【Q14】

★定義

交換留学(生)：本問での「交換・派遣留学(大学)」

政府奨学金留学生：本問での「国費留学(中国政府奨学金)」

Q4. 留学は語学留学でしたか。それとも語学以外の専門を学びましたか。(1つ選択)



● 「語学のみ」の留学が多く、全体の約6割

「語学のみ」の留学は社会人留学生(企業派遣以外)と学部生による場合が多いようだ。一方、「語学+専門」の留学は大学院生が多い。また、「高校卒業後に留学」した場合も専門分野を学ぶために留学したケースが多くを占めていた。【Q14】

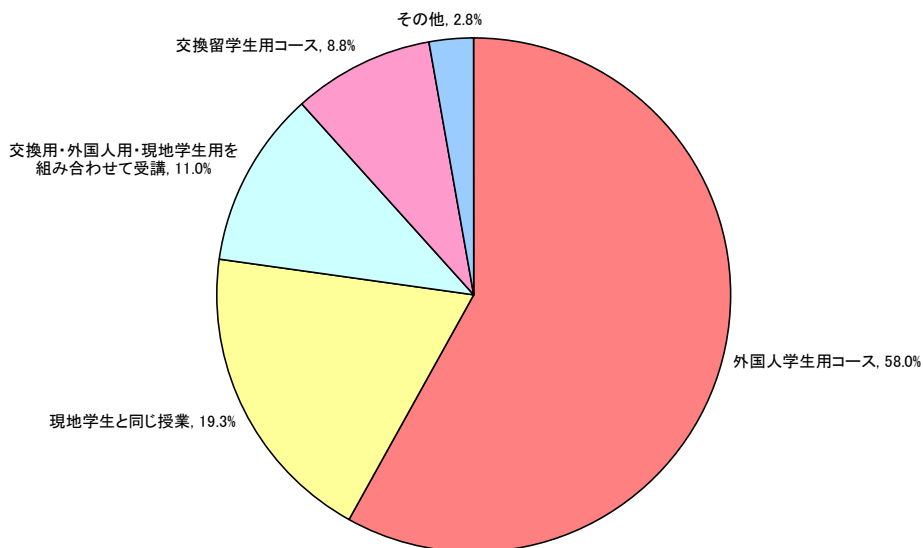
なお、中国政府教育部の「2009 年来華留学生統計簡況」によると、2009 年度に中国へ留学した外国人留学生全体で見ても、語学留学が半数以上を占めている。学位取得を目的としない「言語習得」や、一般的に1年間専門分野のコースを履修する「進修生(聴講生)」の割合は6割と高く、「学位取得を目的」とする留学生は年々増加しているものの全体の約4割に留まる。また、そのうちの約8割が専科生と本科生である。

★定義

「語学のみ」: 本問での「語学のみ」

「専門コースのみ」: 本問での「語学以外の専門」

Q5. 在籍したコースの種類をお答えください。(1つ選択)

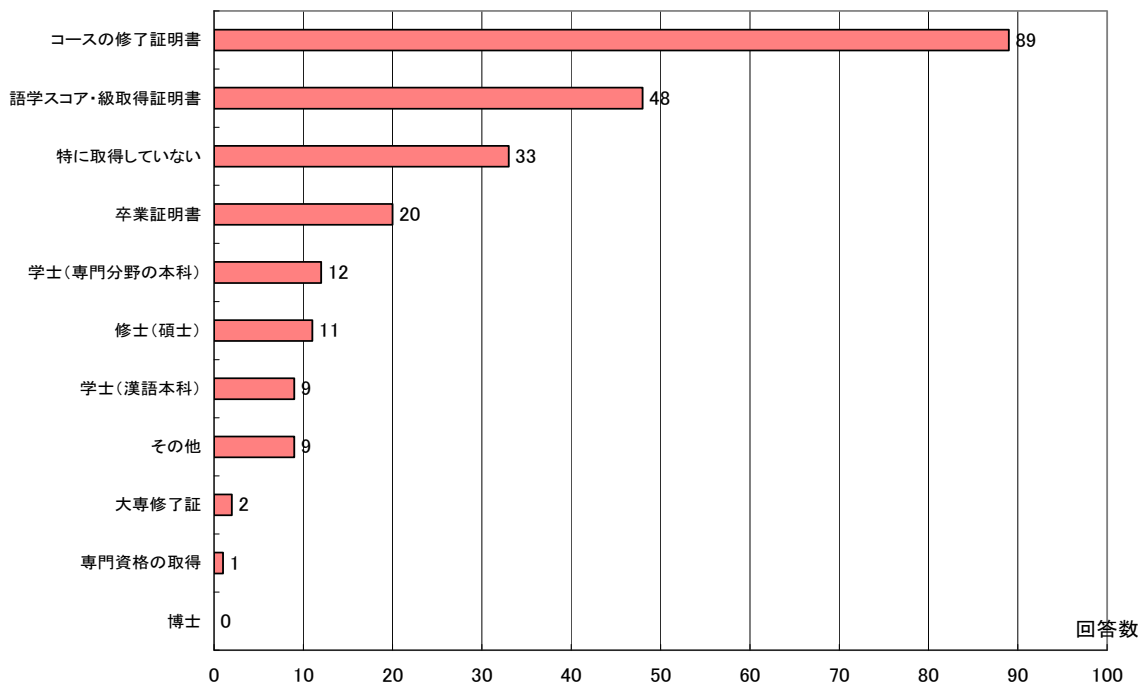


● 「外国人学生用コース」で中国人学生以外の外国人留学生と授業を受けた割合が 6 割弱

中国に留学したからといって必ずしも中国人学生と机を並べて勉強することになるわけではない。「語学のみ」の留学や、「学士」取得目的の留学でも専攻が「本科(漢語本科)」である場合、これらは一般的に「外国人学生用コース」として設けられているため、クラスメイトは「中国人を除く外国人留学生」であることが多い。そのため、「語学のみ」の留学体験者が比較的多かった今回の調査では、中国人学生と同じ授業を受けた割合は「現地学生と同じ授業」と「交換用・外国人用・現地学生用を組み合わせる」を合計した約 3 割に留まった。

「留学中の肩書・身分」別では、交換留学や私費留学(自費)で「語学のみ」の留学が多い「学部生」や、語学留学が主流の「社会人留学生(企業派遣以外)」は、「外国人学生用コース」に所属し、クラスメイトは中国人学生でなかったケースが圧倒的に多い。一方、「大学院生」の留学目的は専門分野の修得であることが多いため、「現地学生と同じ授業」を中国人学生と共に受けた経験を持つ者が多い結果となった。【Q3】【Q4】【Q14】

Q6. 在籍したコースで取得できたのはどの学位・資格・証明書でしたか。(3 つまで選択)



● 「学位取得者」は 2 割弱

留学により現地で取得した学位・資格を尋ねたところ、「語学」コースや「進修生(聴講生)」として専門分野の授業に参加した際、取得することができる「コースの修了証明書」を取得した者が最も多く、全体の約半数を占めていた。そのうち、「6ヶ月~1年未満」の滞在で総費用「50万円未満」・「100万円未満」のケースが多かった。【Q12】【Q49】

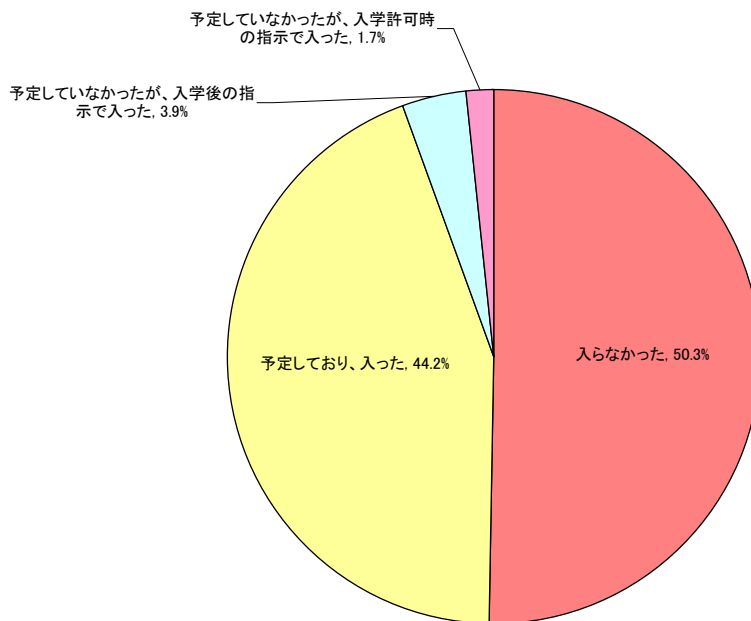
「学位取得者」では、「学士」取得者がその他の学位取得者に比べ若干多かった。中国人学生と同じ授業を受ける「学士(専門分野の本科)」取得者は政府奨学金留学生に多い一方、外国人用コースである「学士(漢語本科)」取得者は、私費留学生(自費)が圧倒的で、それぞれ「2年以上」留学している。「修士(碩士)」取得者においても、私費留学生(自費)より政府奨学金留学生であったケースが若干多く、最も多い滞在年数は「2年~4年未満」。なお、今回のアンケート参加者に博士取得者はいなかった。【Q3】【Q12】

★定義

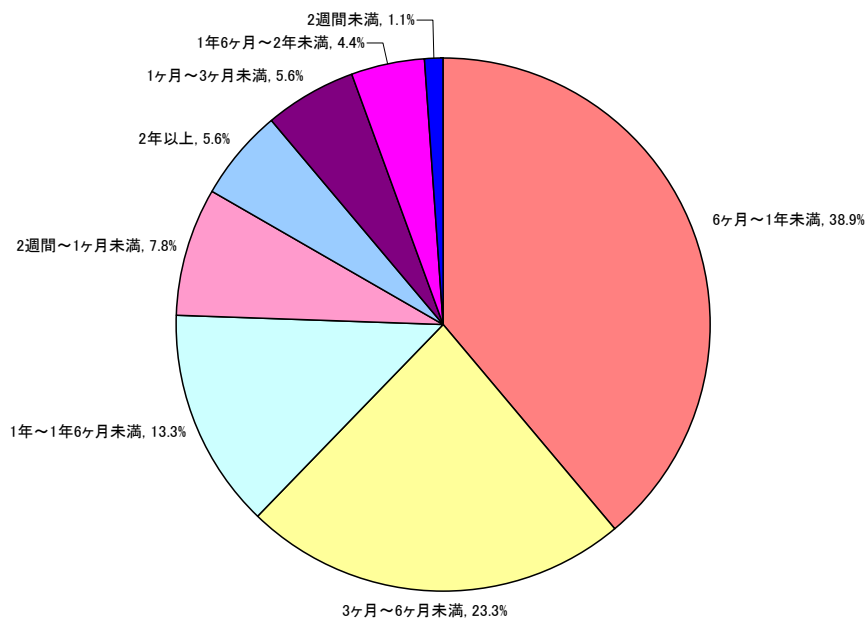
「学位取得者」: 本問での「学士(専門分野の本科)」+「学士(漢語本科)」+「修士(碩士)」

「学士」/「学部」: 本問での「学士(専門分野の本科)」+「学士(漢語本科)」

Q7. コースの始めに、または専門コースと並行して語学コースに入りましたか。(1つ選択)



Q8. 語学コースの受講期間はどのくらいでしたか。(1つ選択)



● 専門コースの開始前に、または並行して語学コースに「入った人」と「入らなかった人」はほぼ半々
 私費留学生(自費)、政府奨学金留学生といった「留学形態」に関わらず、専門コースの開始前もしくは並行して語学コースに「入った人」と「入らなかった人」の割合は、ほぼ半々であった。受講者のうち、最も多かったのは、「6ヶ月～1年未満」の期間の受講で、「コースの修了証明書」目的で留学している。
 また、「学位取得者」では5割強の者が語学コースに参加していた。【Q3】【Q6】【Q12】

Q9. 留学した学校名をご記入ください。ダブルディグリー等の場合は新しい順に2校までそれぞれご記入ください。

中国教育部の「2009 年来華留学生統計簡況」によると、2009 年度留学生が多く滞在した上位十都市は、北京、上海、天津、遼寧、江蘇、広東、山東、浙江、黒竜江、湖北である。なお、今回の調査には以下の機関への留学生に協力していただいた。

【北京市】

清華大学、首都経済貿易大学、首都師範大学、对外経済貿易大学、中国人民大学、北京大学、北京外国語大学、北京華文学院、北京語言大学、北京師範大学、北京第二外国語学院、北京中医薬大学、北方工業大学

【上海市】

華東師範大学、上海外国語大学、上海交通大学、上海財経大学、上海師範大学、上海戯劇学院、東華大学、同済大学、復旦大学

【天津市】

天津外国語大学、天津理工大学、南開大学

【遼寧省】

大連海洋大学、大連外国語学院、大連水産学院、大連理工大学、東北大学、東北財経大学、東北師範大学、遼寧師範大学、

【江蘇省】

江南大学、蘇州大学、南京師範大学、南京中医薬大学、南京農業大学

【浙江省】

杭州大学、浙江大学、浙江师范大学

【湖北省】

武漢大学、武漢理工大学、

【吉林省】

吉林大学、長春工業大学

【山東省】

山東大学、青島大学

【黒竜江省】

黒龍江大学、哈爾濱師範大学

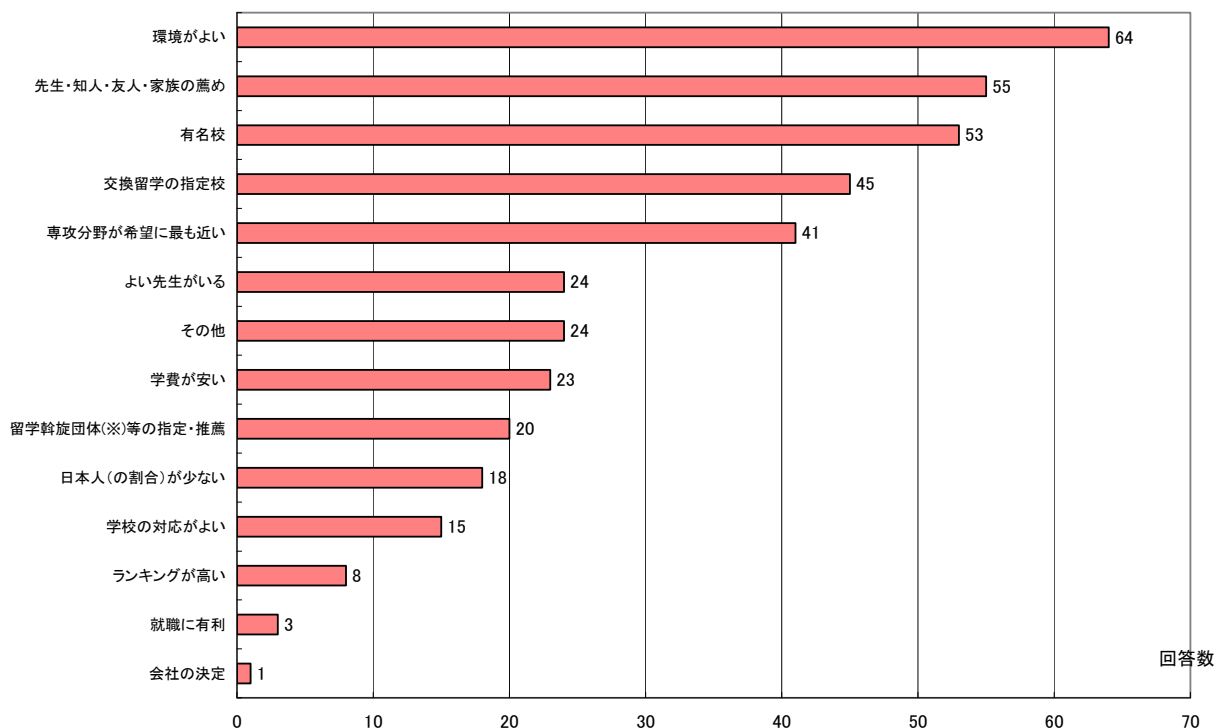
【重慶市】

重慶大学、西南師範大学

【その他】

厦門大学、安徽師範大学、四川大学、雲南大学、雲南師範大学、香港大学、東海大学、中国文化大学

Q10. 留学した学校を選んだ理由はどんなことですか。(3つまで選択)



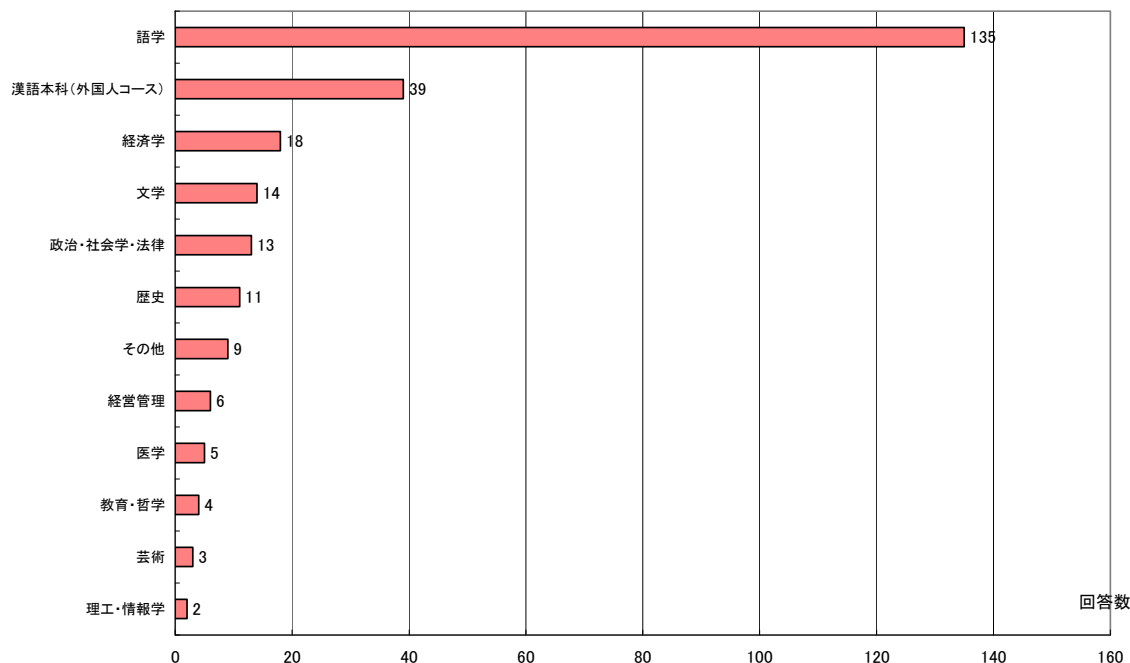
※留学斡旋団体： 留学に関わる学校選択(斡旋)、出願手続き・渡航手続き代行、事前オリエンテーション、留学前及び渡航先での相談対応などのサービスを行っている会社または団体。会社・団体によってサービス内容は異なる。

● 学校の選択基準は「環境がよい」、「他者の薦め」、「有名校」(複数回答形式)

回答者の「留学の種類」別について、「語学のみ」の留学者は、「環境がよい」、「先生・知人・友人・家族の薦め」、「有名校」を重視し、次いで「交換留学の指定校」という選択順位である。一方、「専攻分野が希望に最も近い」を重視したのは、「語学+専門」及び「専門コースのみ」での留学者。それ以外の選択基準は、「環境がよい」、「有名校」、「先生・知人・友人・家族の薦め」という結果であった。

「語学のみ」と「語学+専門/専門コースのみ」の留学者の選択基準を比較すると、いずれもほぼ同数で「有名校」であることと「ランキングが高い」事を気にかけている。選択基準に最も差が現れたのは「学費が安い」の項目で、費用を重視したのは「語学のみ」の留学者。「専門コースのみ」を受講した留学者の約10倍であった。【Q4】

Q11. 留学先での主な勉強内容・専攻分野は何でしたか。(3つまで選択)



●勉強内容は「語学」が7割強、次いで「漢語本科(外国人コース)」が約2割

「専門分野」を学んだ者のうち、外国人を対象に中国語を学ぶコースである「学士(漢語本科)」を専攻した割合が多かった。漢語本科専攻(外国人コース)の学生が中国へ留学した理由として多く挙げたのは、「中国語を学びたい」(9割弱)、「中国が好き」(4割弱)、「留学経費が安い」(3割弱)である。【Q2】【Q3】

一方、「将来の就職に有利だから」という理由は1割弱に留まった。【Q1】

なお、中国政府教育部の「2009 年来華留学生統計簡況」によると、2009 年度学位取得目的で中国へ留学した外国人留学生全体で見ても、「学士(漢語本科)」を専攻した割合は6割弱と半数以上を占めていた。

次に多かった専攻分野は「経済学」であったが、これらの回答者が中国へ留学した理由として、「中国語を学びたい」(5割強)、「希望する分野の先進・専門的な国だから」(3割強)、「奨学金がもらえた」(3割弱)を多く挙げた。【Q2】

また、「取得資格」別では、「特に取得していない」や「コースの修了証明書」といった学位取得外の“非学歴”留学が全体の5割、次いで中国人学生と共に授業を受ける「学士(専門分野の本科)」課程に在籍した者が約2割であった。【Q6】

なお、中国政府教育部の「2009 年来華留学生統計簡況」によると、2009 年外国人留学生が5,000 人を越えた専攻は以下の7分野であった。漢語本科(学位取得目的の留学生の57.3%)、西洋医学(8.9%)、文学(7%)、経済(6%)、管理(マネージメント)(5.1%)、工科(4.9%)、中国医学(4.6%)。

Q12. 留学(予定)期間をお答えください。

留学終了者／留学中の別

留学終了者	調査時点で留学中の者
99	82

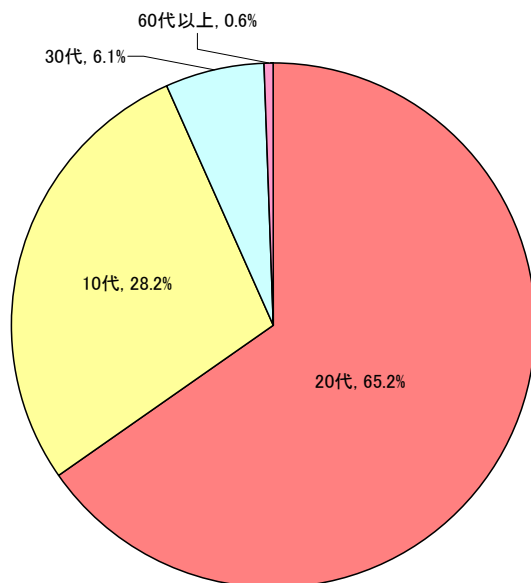
留学期間

3ヶ月未満	3ヶ月以上6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上4年未満	4年以上
15	12	72	45	22	15

★定義

「留学終了者」: 2011年2月以前に留学を終了した者

Q13. あなたが留学した時の年齢をお答えください。(1つ選択)

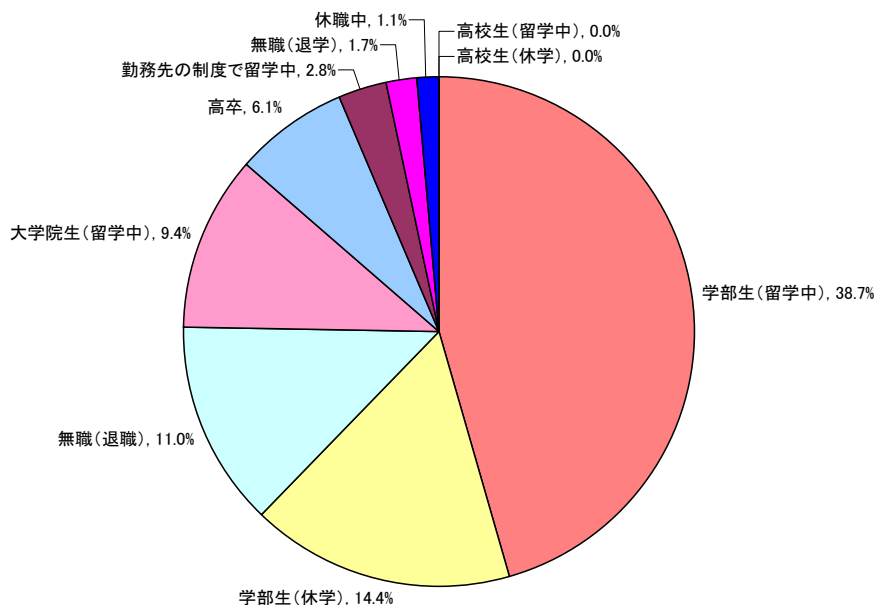


● 留学開始年齢は「20代」が7割弱

留学開始年齢は、全体で20代が多く、10代の2倍強であった。目的別では、「コースの修了証明書」取得目的の留学でも「20代」が圧倒的に多く、「学士」取得目的では「10代」で留学を開始している人が多かった。【Q6】

なお、今回の調査では、「30代」で中国へ留学した理由として「キャリアアップ」は挙がっていなかった。【Q2】

Q14. 渡航中の、日本での身分・肩書きをお答えください。(1つ選択)



● 留学中の所属は「学部生」が5割強、社会人留学生(企業派遣以外)と大学院生留学生はほぼ同数

回答者の過半数が学部生で、その日本での学籍については、「学部生(休学)」よりも「学部生(留学中)」の割合が高かった。また、社会人留学生(企業派遣以外)では、「無職(退学)」や「休職中」の場合よりも留学のために退職したケースである「無職(退職)」の割合が高かった。なお、「留学期間」が「3ヶ月未満」や「3ヶ月～6ヶ月未満」といった短期間の留学生はほぼ学部生であり、大学院生や社会人留学生(企業派遣以外)の場合は1年以上滞在するケースがほとんどであった。【Q12】

★定義

学部生： 本問での「学部生(留学中)」+「学部生(休学)」

大学院生： 本問での「大学院生(留学中)」+「大学院生(休学)」

社会人留学生(企業派遣以外)： 本問での「無職(退職)」+「無職(退学)」+「休職中」

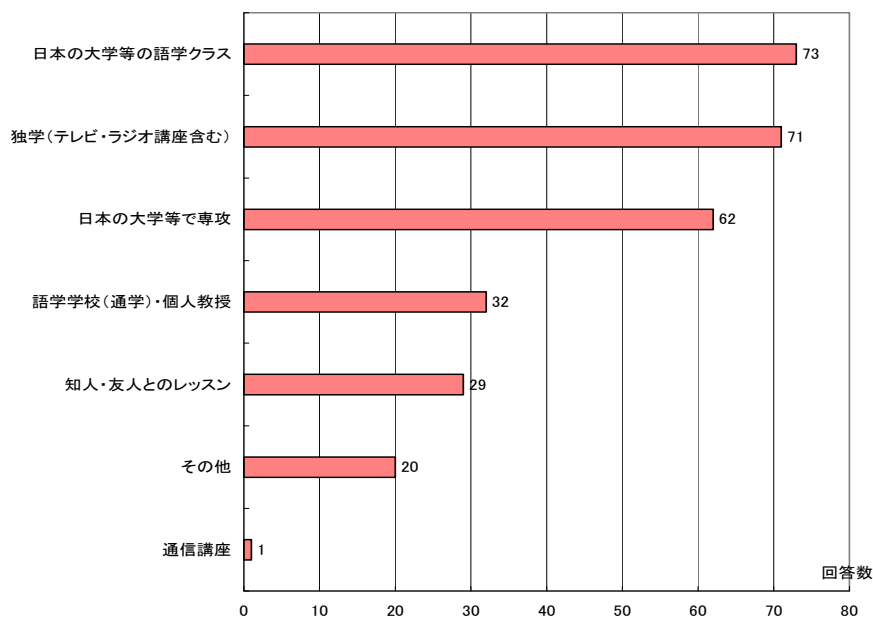
社会人(退職)： 本問での「無職(退職)」

高校卒業後に留学： 本問での「高卒」

Q15. 留学前・留学後の語学力についてお答えください。(テストごとに1つ選択・記入)

- 留学前後で同じ試験を受けた者は181名中41名(25.7%)。
- 留学前に比べて留学後の受験結果に好影響が見られたのは39名(全体の21.3%)。
- HSK(新・旧)受験者数は、留学前に比べて留学後の受験者数が倍増。(留学前58人→留学後116人)
- 何の試験も受けていない人の数は留学前に比べて留学後は減少。(留学前77人→留学後45人)

Q16. 日本での語学学習方法は何でしたか。(3つまで選択)



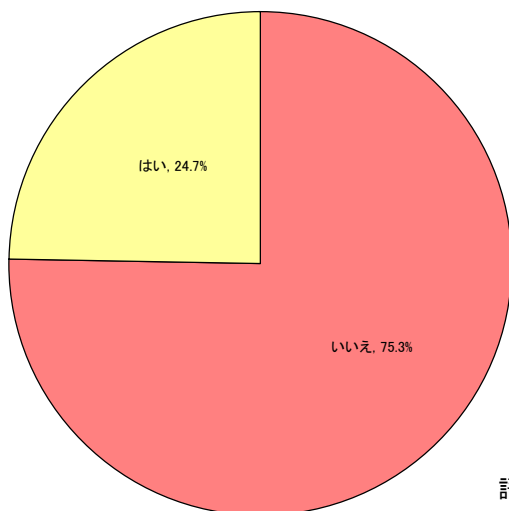
- 多かった回答は、「日本の大学等の語学クラス」と「独学(テレビ・ラジオ講座含む)」

上記の内訳は、政府奨学金留学生では「独学」と「日本の大学等の語学クラス」がほぼ同数で多く、私費留学(自費)の場合も「独学」が圧倒的。なかには、交換留学生のように「独学」よりも在学中の大学で学んでいるケースも多くみられたが、全体的には留学形態や留学期間に関わらず、「独学」で勉強している者が多いという傾向。また項目別では、「語学学校(通学)・個人授業」とした回答者の多くは、私費留学生(自費)が最も多かった。【Q3】

なお、現地での語学勉強法、留学前に語学力を高める必要性、自分のペースで、中国で中国語を学ぶということに関して、留学経験者から挙げた代表的なコメントをまとめた。

詳しくは機構サイト(http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi_c.html#q16)に掲載している。>>

Q17. (語学留学以外の方に伺います)現地での入試(筆記・面接等)はありましたか。(1つ選択)



語学留学以外の73名が回答

Q18. (「はい」と回答した方に)どのような対策をしましたか。役に立ったものをお答えください。(3つまで選択)

日本人の先輩・友人にアドバイスを受けた	5
参考書	5
中国人の知人・友人にアドバイスを受けた	4
過去問題	4
ホームページを見た	2
実施機関・教員に質問	2
留学斡旋団体にアドバイスを受けた	1
その他	7

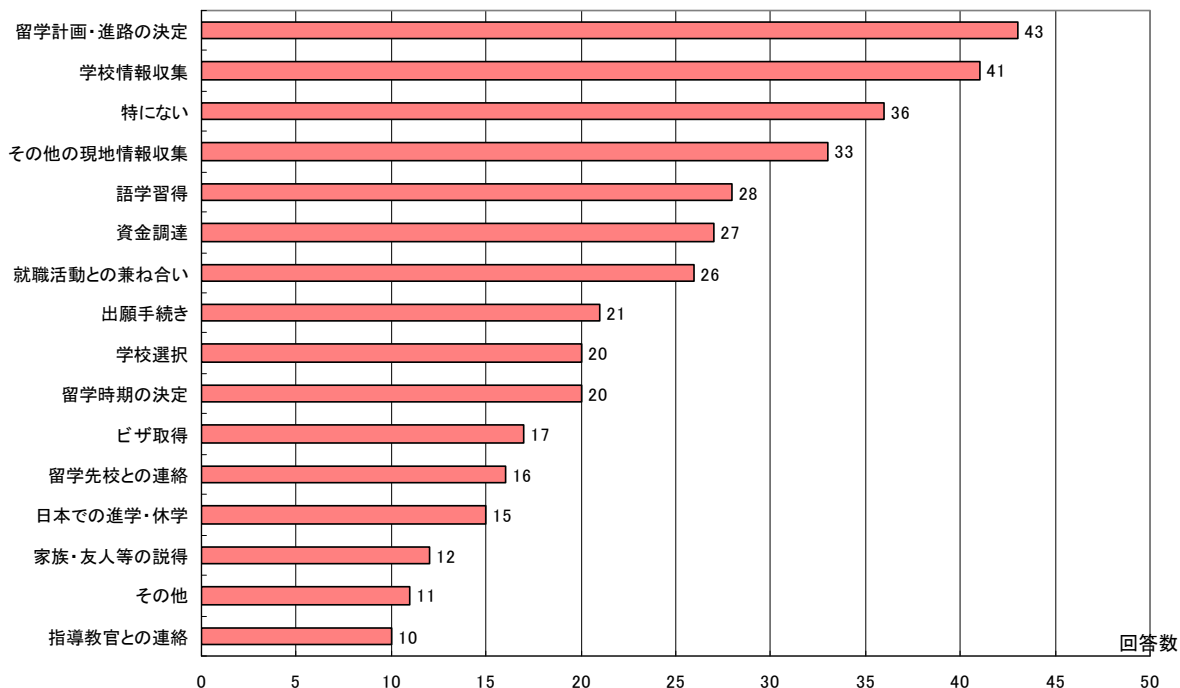
● 2割強が現地で入学試験を受験

留学形態別で分類した「学士(専門分野の本科)」の半数に入試が課せられた。しかし、「学士(漢語本科)」においては、その8割は無試験であった。また、「修士(碩士)」への留学では6割強、「コースの修了証明書」を目的とする留学では約9割に現地での入試が免除されたようである。【Q6】

なお、私費留学生(自費)が受験した傾向が高かった。【Q3】

入学試験対策としては、「日本人の先輩・友人にアドバイスを受けた」と「参考書」という意見が最も多くそれぞれ3割弱で、次いで「中国人の知人・友人にアドバイスを受けた」と「過去問題」が挙げられた。

Q19. 留学前に困ったこと・大変だったことがあればお答えください。(3つまで選択)



● 留学前に大変だったことは「留学計画・進路の決定」や「学校情報収集」が多い

「留学計画・進路の決定」や「学校情報収集」以外に困ったこととして学部生が挙げたのは、「就職活動との兼ね合い」と「その他の現地情報収集」であった。また、社会人留学生(企業派遣以外)は「特にない」が最多で、次いで「語学習得」であった。【Q14】

なお、「留学計画の決定」に関して、留学時間は限られているので、帰国後の自分に備えるためにも、目的意識を持たないとなんとなく勉強しているような気になるというコメントが回答者から多く挙がった。

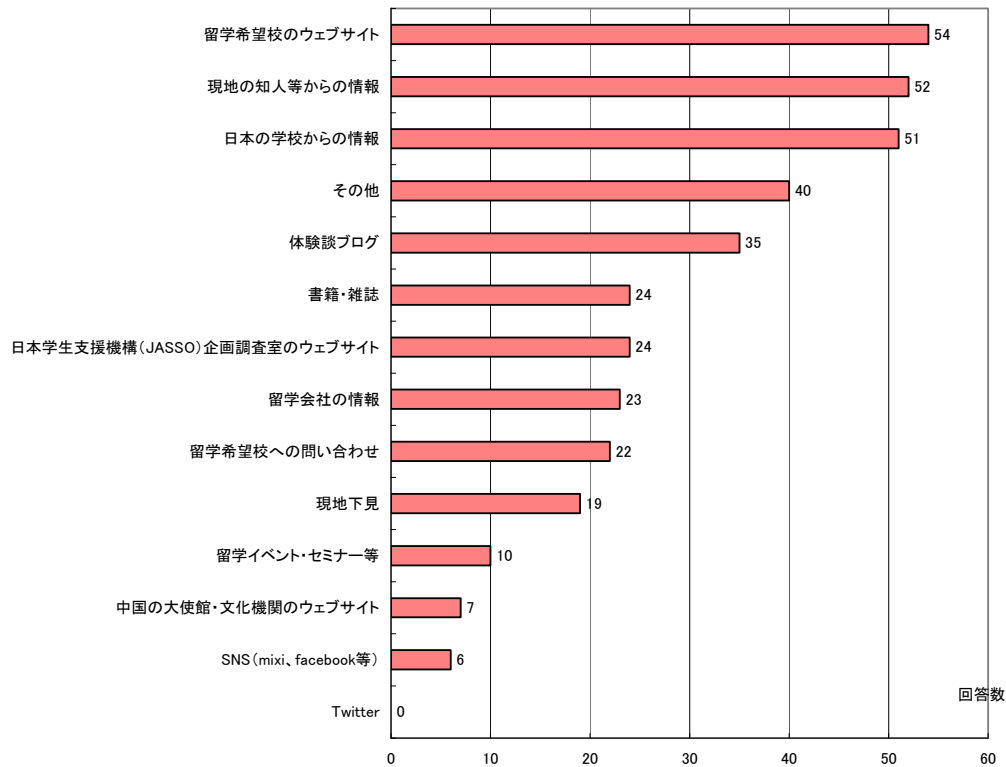
[詳しくは機構サイト\(http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi_c.html#q19\)](http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi_c.html#q19)に掲載している。>>

Q20. 留学準備にかかった期間をご回答ください。

留学を具体的に考え始めてから渡航するまでの期間は以下のとおり。

平均	11.5ヶ月
最長	10年
最短	0ヶ月

Q21. 留学する学校に関する情報収集のために取った方法のうち、役に立ったものをお答えください。(3つまで選択)



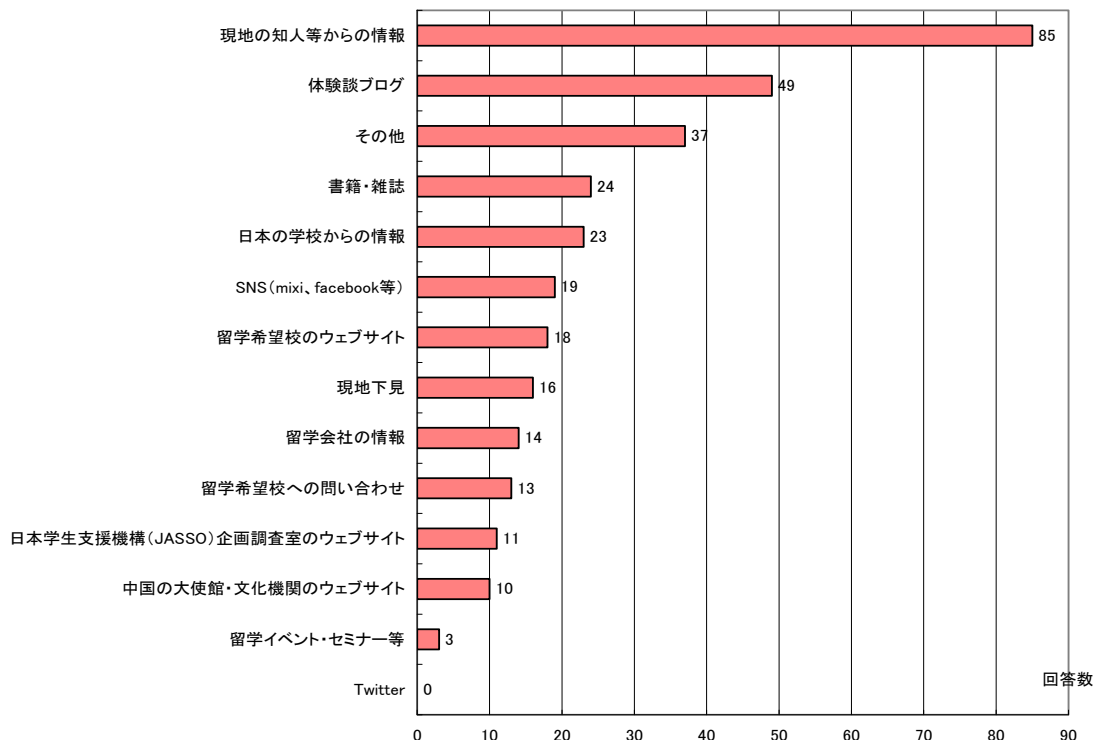
● 「留学希望校のウェブサイト」や「現地知人等からの情報」といった現地発の情報も収集している

一次情報源(オリジナルの情報源)である「留学希望校のウェブサイト」は、留学形態に関わらず多くの者がチェックしているようであるが、とくに私費留学生(自費)、政府奨学金留学生、交換留学生が多い。【Q3】

また、留学を実り多いものにするために、自分の留学の目的をよく考え、その目的に見合う留学プラン作りや情報収集を行うことが重要であると唱える回答者は少なくない。留学の目的を明確にして情報収集を行うこと、事前の情報収集の重要性、一次情報源(オリジナルの情報源)から情報を得ること、奨学金情報の収集に関して多かったコメントをまとめた。

詳しくは機構サイト(http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi_c.html#q21)に掲載している。>>

Q22. 現地での生活に関する情報収集のために取った方法のうち、役に立ったものをお答えください。(3つまで選択)



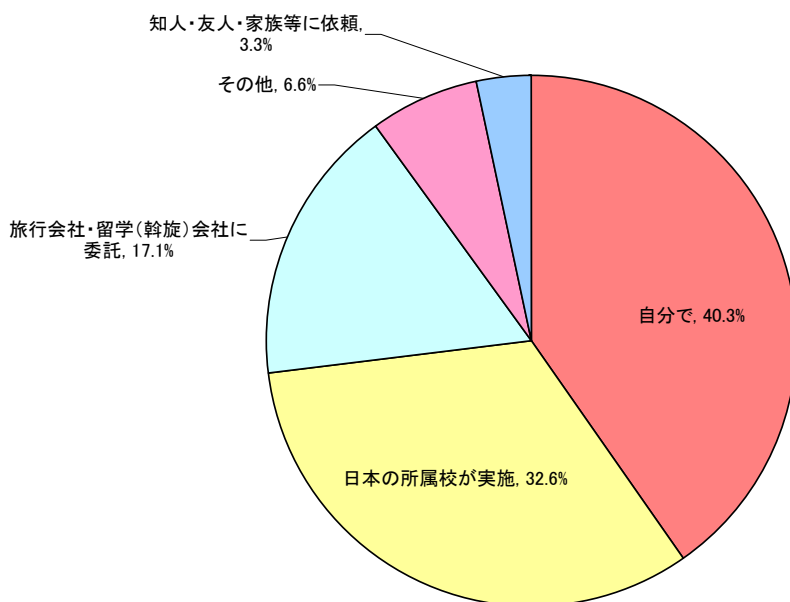
● 留学中の主な情報源は「現地の知り合い」。複数回答形式

日本人をはじめ、中国人やその他の外国人留学生といった「現地の知人等からの情報」を選択したものが多かった。特に、日本人同士での情報交換に関するコメントが多く見られた。

情報収集を人任せにしないこと、日本人同士での情報交換に関して多く寄せられたコメントをまとめた。

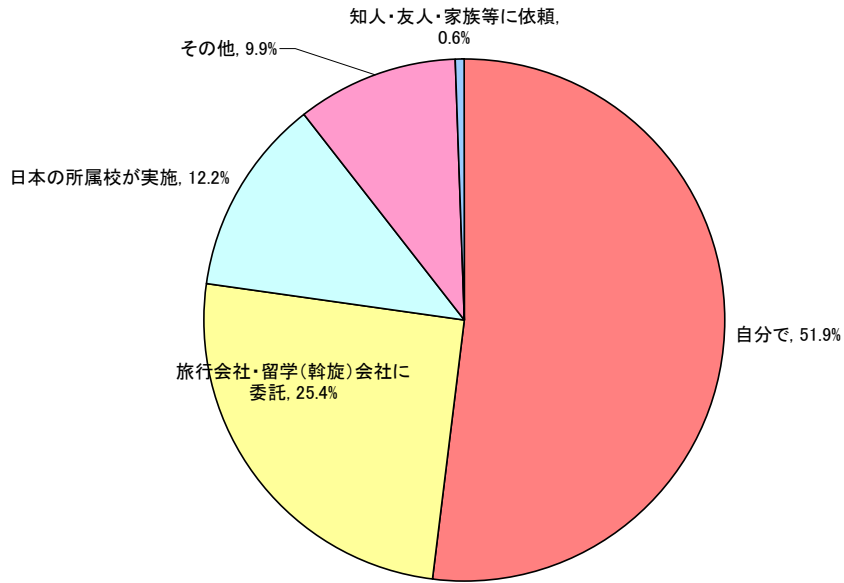
詳しくは機構サイト(http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi_c.html#q22)に掲載している。>>

Q23. 出願手続きはどのように行いましたか。(1つ選択)



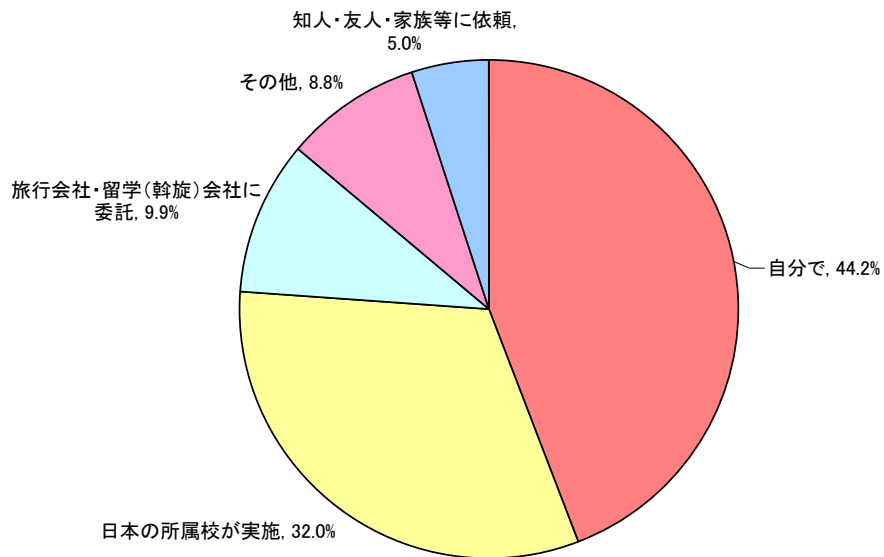
● 「自分で」出願手続きを行なったのは約4割

Q24. ビザ取得手続きはどのように行いましたか。(1つ選択)

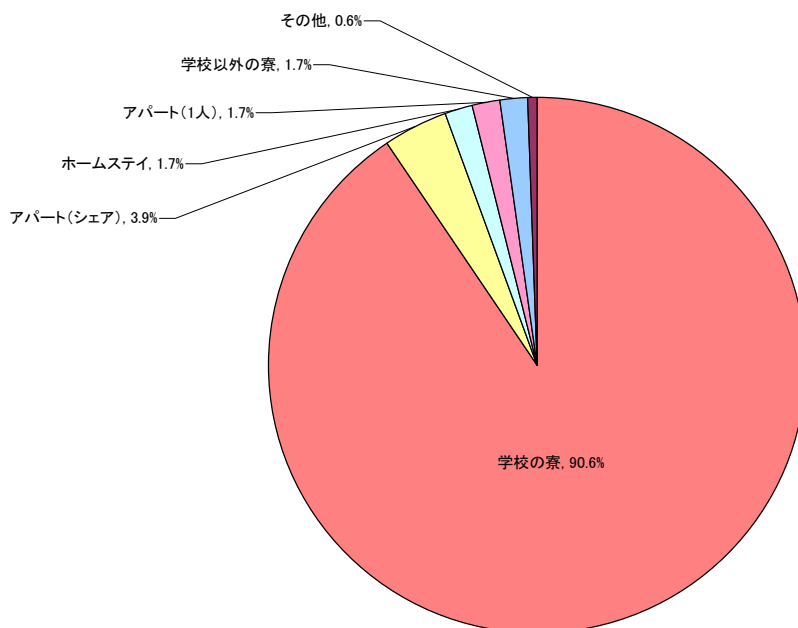


● 自分でビザを申請した者が過半数以上

Q25. 入学手続きはどのように行いましたか。(1つ選択)



Q26. 現地での主な滞在先はどこでしたか。(1つ選択)



● 主な滞在先として「学校の寮」と回答した者が圧倒的

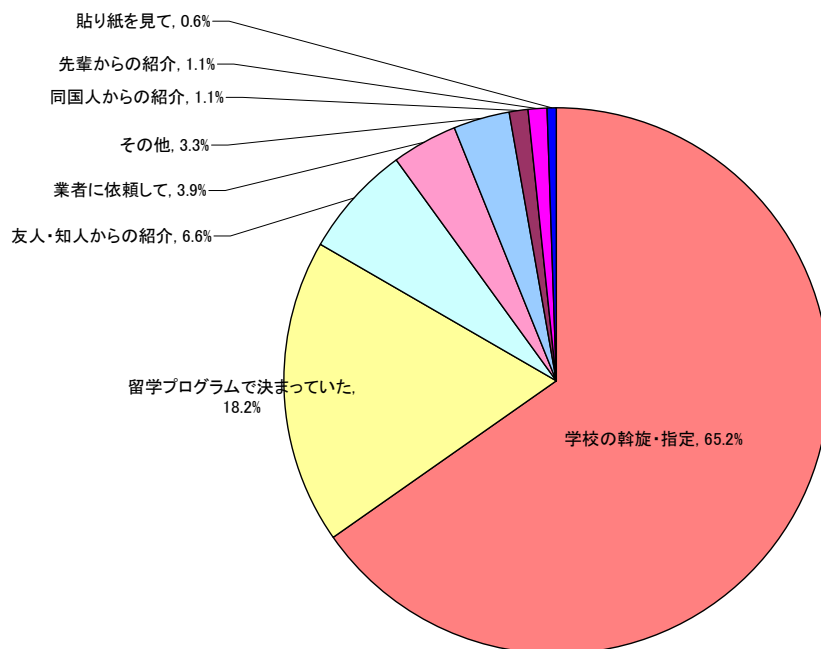
中国の大学はキャンパス内に外国人用の寮を完備しているところが大多数である為、留学生の多くが滞在先として「学校の寮」を選んでいる。これは、「在学」中に留学した学生に限らず退職をして留学した社会人留学生（「勤務先の制度で留学中」を含む）についても言え、30代、60代以上の者でも「学校の寮」を滞在先として選んでいる。【Q13】【Q14】

なお、JASSO が実施した[「中国高等教育機関調査\(北京・上海\)」](#)の中の大学を対象としたアンケート結果からも分かるように、ホームステイを斡旋している学校は少ない。【Q6】

★定義

「在学」: Q14 での「学部生(休学)」+「学部生(留学)」+「大学院生(休学)」+「大学院生(留学)」

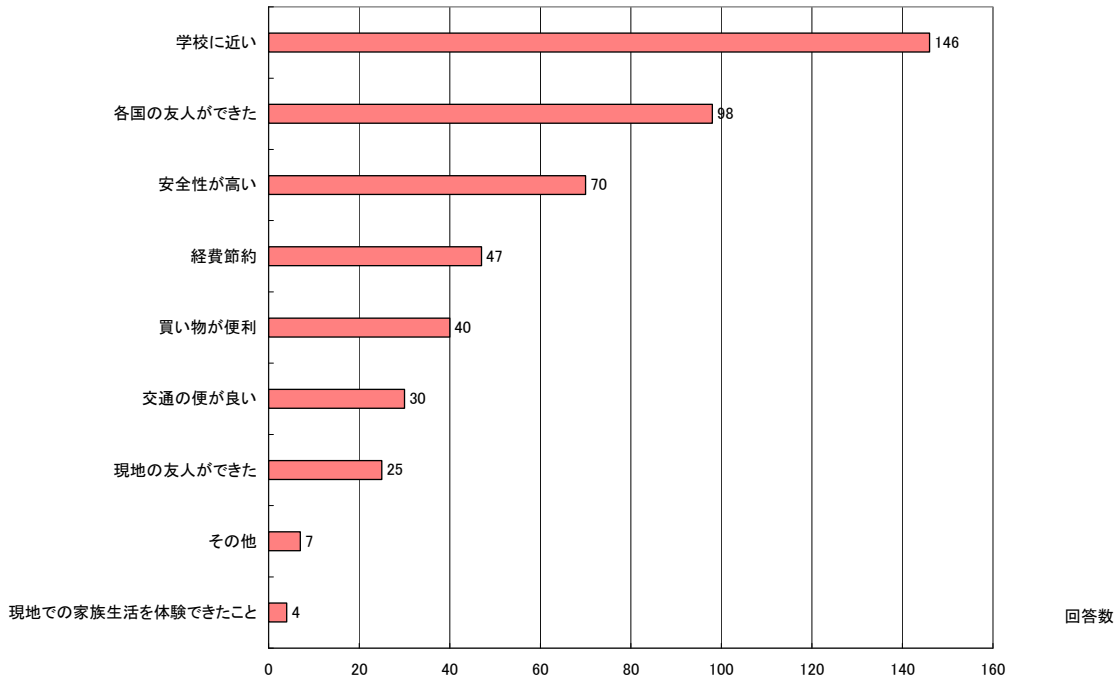
Q27. 滞在先はどのように探しましたか。(1つ選択)



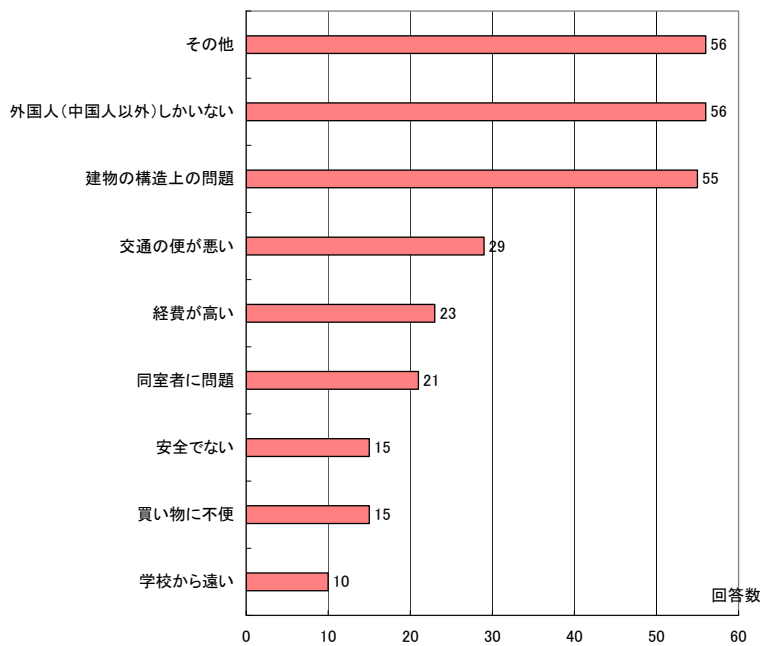
● 8割強が「学校の斡旋・指定」により「学校の寮」に滞在

2番目に多かった回答である「留学プログラムで決まっていた」と答えた者の多くは、交換留学生や政府奨学金留学生であった。
 1番目に多かった回答同様、「学校の斡旋・指定」で「学校の寮」に滞在した場合が多い、と解釈できる。なお、滞在先として「アパート(シェア)」を選んだ者は、「友人・知人からの紹介」等の方法で滞在先を探しているようである。【Q3】【Q26】

Q28. 滞在先の良かった点はどこでしたか。(3つまで選択)



Q29. 滞在先の問題点はどこでしたか。(3つまで選択)



● 滞在先の良さは「生活圏の近接」と「各国の友人」

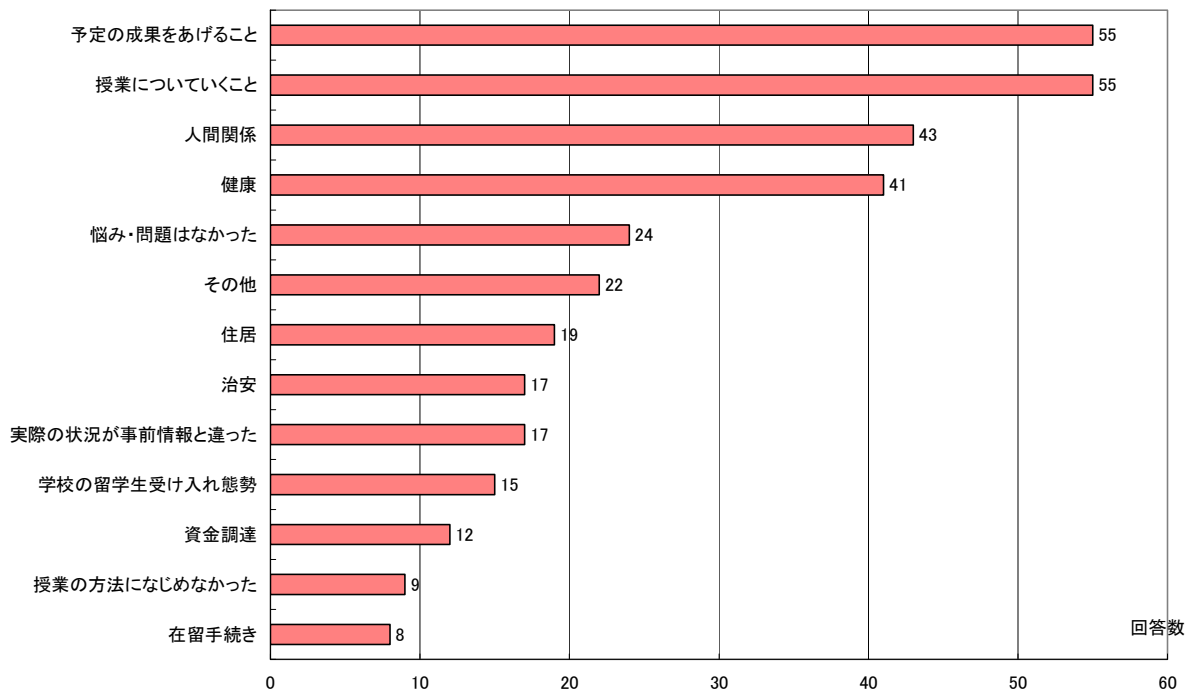
回答者全体の約 8 割が「学校に近い」を滞在先の利点として挙げている。

項目別では、「学校の寮」に滞在していた者の約 8 割が「近さ」を利点として選択した他に、学外に滞在する「学校以外の寮」、「アパート(1 人)」、「アパート(シェア)」も「近さ」を挙げている者が多数であることから、全体的に学校の近辺で生活する留学生が多い、と解釈できる。

また、次に回答の多かった「(中国人以外の)外国の友人ができた」を選択したものは、「学校の寮」滞在者が圧倒的。これは、中国の大学の留学生寮は一般的に外国人専用である場合が多いためと推測される。同時に「学校の寮」滞在者で「現地の友人ができた」と答えたのは約 1 割(13.4%)に留まっており、滞在先の問題点として「外国人(中国人以外)しかいない」という声が多く挙がっている。

なお、「安全性が高い」を選択した者のうち、9 割強は「学校の寮」滞在者であるが、これは、留学生寮が一般的にキャンパス内に立地されていることや、留学生寮の入口に門番が配置されていることが理由と考えられる。(以上【Q26】)

Q30. 留学先で抱えた悩み・問題はありましたか。(3 つまで選択)



● 留学中に大変だったのは「予定の成果をあげることに」と「授業についていくことに」

「語学のみ」や「語学+専門」などといった「留学の種類」を問わず、最大の課題は、「予定の成果をあげることに」と「授業についていくことに」が挙げられている。【Q4】

また、回答を「留学期間」別にみると、悩みの内容に傾向が見られた。特徴として、「半年未満」の短期間の場合は「人間関係」といった『外的要因の悩み』が多かった一方、留学期間の長期化に伴い、「6ヶ月～1年未満」は「予定の成果をあげることに」、「1年～2年未満」は「健康」、「2年以上」は「授業についていくことに」と、悩みの内容が『内的要因』にシフトしているようだ。【Q12】

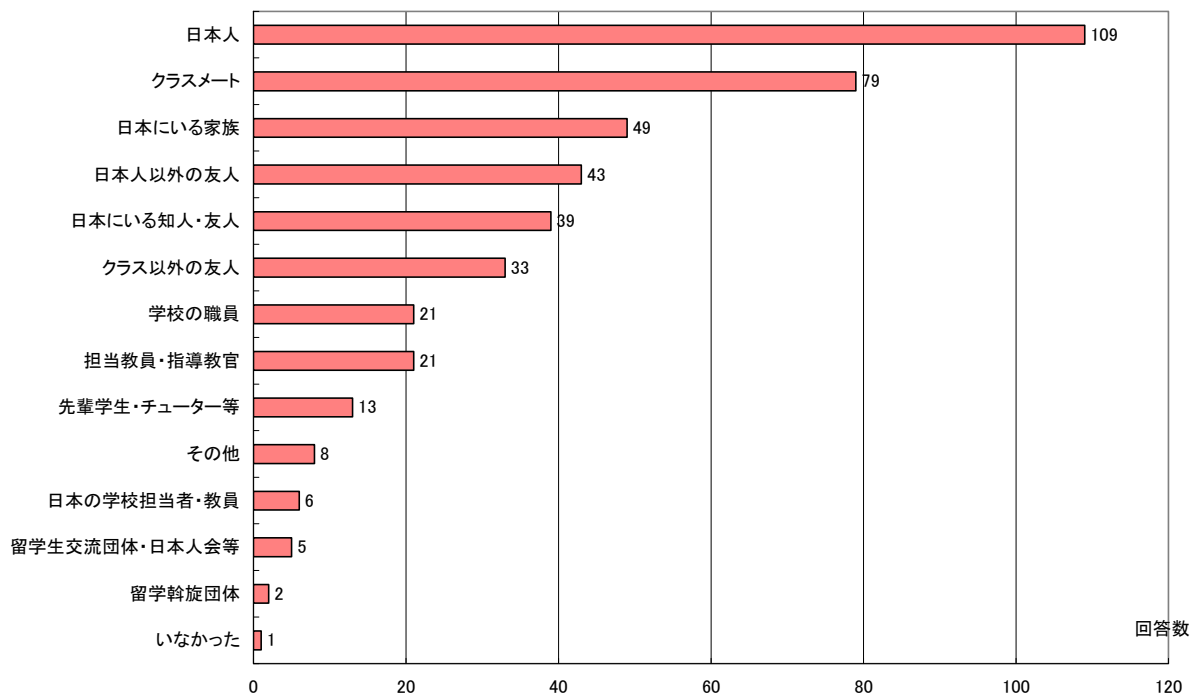
★定義

「半年未満」: Q12 での「3ヶ月未満」+「3ヶ月～6ヶ月未満」

「半年以上」: Q12 での「6ヶ月～1年未満」+「1年～2年未満」+「2年～4年未満」+「4年未満」

「2年以上」: Q12 での「2年～4年未満」+「4年以上」

Q31. 相談相手はいましたか。いた場合、それは誰ですか。(3つまで選択)



● 相談相手は「現地の日本人」が圧倒的

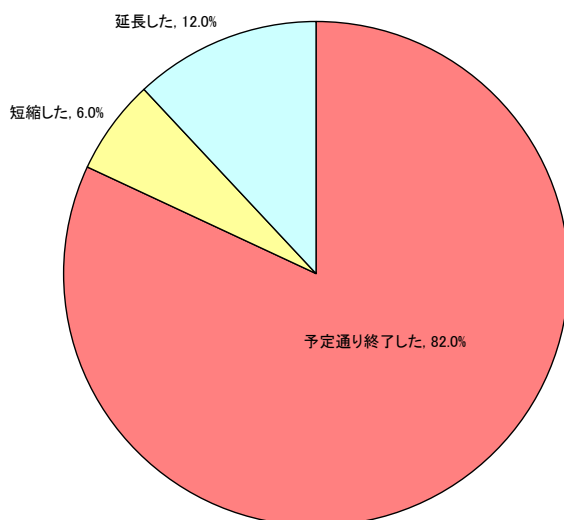
「留学の種類」別では、「語学のみ」の留学の場合は相談相手としてクラスメイト等の「日本人」を頼る傾向が圧倒的であるが、中国人学生と共に授業を受ける機会の多い「語学＋専門」や「専門コースのみ」の留学生は「日本人以外のクラスメイト」を、「日本人のクラスメイト」と同じように頼っている傾向が見られた。【Q4】

なお、「現地の日本人」との交流に関して、アンケート回答者のコメント欄には、日本人同士であり固まらないようにというアドバイスがあると同時に、日本人留学生同士の交流の大切さを指摘するコメントが挙がっている。

詳しくは機構サイト(http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi_c.html#q31)に掲載している。>>

Q32. 留学期間は予定通り終了しましたか。それとも短縮もしくは延長しましたか。(1つ選択)

(Q32-37は留学終了者のみ回答)【Q12】



● 約 2 割弱が留学中に留学期間を変更

期間変更は、「語学のみ」の留学生に多く見られ、約 2 割を占める。内訳は、「延長した」12%、「短縮した」6%で「延長した」の方が多かった。「留学中の肩書・身分別」では、「在学」者は延長傾向、「社会人(退職)」と「勤務先の制度で留学中」は短縮傾向。
【Q14】

Q33. 留学期間を短縮もしくは延長した場合、理由はどのようなことですか。(3 つまで選択)

留学期間変更の理由を複数回答形式で尋ねたところ、「延長」した理由の最多は、「もっと長く滞在したくなった」(9 名)、次いで「現地で進学した(する)から」(2 名)、「現地の社会事情・事件等」(1 名)、「奨学金等、経済援助を得たから」(1 名)、「その他」(1 名)の順である。

また、「短縮」理由の回答は、「就職が決まった」(2 名)、「現地の社会事情・事件等」(2 名)、「早く単位がとれた(目的を達成した)」「就職活動のため」「経済的な理由」「その他」(各 1 名)であった。

Q34. 留学期間終了後の進路についてお答えください。(1 つ選択)

選択肢	度数	%
帰国して復学	37	37.00%
帰国して進学	17	17.00%
帰国して就職	14	14.00%
復学後就職	9	9.00%
その他	8	8.00%
就職活動中	7	7.00%
現地で就職	6	6.00%
第三国に進学	1	1.00%
進学準備中	1	1.00%
第三国で就職	0	0.00%
不明	0	0.00%
全体	100	100%
回答対象外	81	-

● 留学後の進路は「帰国して復学・進学」が半数以上、「帰国して就職」が 1 割強

私費留学生(自費)や政府奨学金留学生などといったいずれの「留学形態」においても、「帰国して復学」あるいは「帰国して進学」と回答した者が多かった。【Q3】

「帰国して就職」した者のうち、その 6 割強が「語学のみ」の留学であった。【Q4】

また、「社会人留学生(企業派遣以外)」の留学終了後の進路として、「現地で就職」の回答が最も多かったが、「現地で就職」した者についての特徴として、「社会人(退職)」、「語学のみ」の留学、「20 代」もしくは「30 代」、留学期間「6 ヶ月～1 年未満」が多いという傾向が見られた。【Q4】【Q12】【Q13】【Q14】なお、「現地で就職」、「帰国して就職」した者の職種は、「事務」が最も多く、次いで「営業」、「教育」であった。【F5】

Q35. 現地で就職活動を行った方へ：現地での就職活動の方法で役に立ったことをお答えください。(3 つまで選択)

(中国での就職、日本の就職いずれを目指していた場合も含まれます。)

友人・知人の紹介	7
現地でコネクションをつくった	3
日本のコネクションを利用した	3
就職・転職情報会社のサイト	3
就職説明会・セミナー・フェア	3
求人欄(新聞等)	2
企業訪問	1
その他	8

Q36. 帰国後の就職活動の方法で役に立ったことは何でしたか。(3 つまで選択)

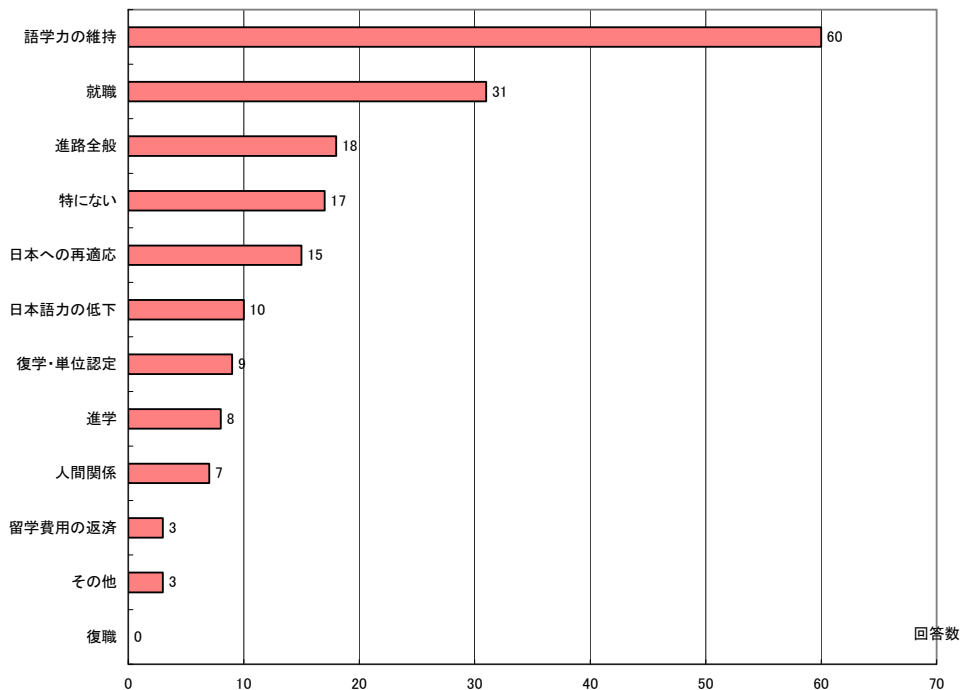
就職説明会・セミナー・フェア	19
就職・転職情報会社のサイト	19
日本の学校の就職担当部門	7
留学経験者からの情報	5
日本の担当教官からの紹介	4
企業訪問	4
日本のコネクションを利用した	3
日本の知人・友人の紹介	2
現地でコネクションを作った	2
求人欄(新聞等)	2
日本関連団体の紹介	1
一時帰国して就活した	1
その他	13

● 「現地での就職活動」は人間関係を重視、「日本での就職活動」は「セミナーや情報サイト」を重視

“関係”という中国語は、日本語で言うところの“人間関係”を表し、中国文化において重視されている要素のうちの一つだが、現地で就職活動を行った 20 名に役立った就職活動の方法を尋ねたところ、「友人・知人の紹介」が最も多く、以下「現地でコネクションをつくった」、「日本のコネクションを利用した」、「就職説明会・セミナー・フェア」、「就職・転職情報会社のサイト」などが挙げられた。

一方、帰国後就職活動をしたのは 51 名。日本での就職活動で役立った方法についての回答で最も多かったのは、「就職説明会・セミナー・フェア」、「就職・転職情報会社のサイト」(それぞれ 4 割弱)であった。「現地で就職活動」をした回答者から挙げた「友人・知人の紹介」、「現地でコネをつくった」、「日本のコネを利用した」はごく少数に留まった。

Q37. 留学終了後に抱えた悩み・問題はありましたか。(3 つまで選択)



● 留学終了後の問題は「語学力の維持」

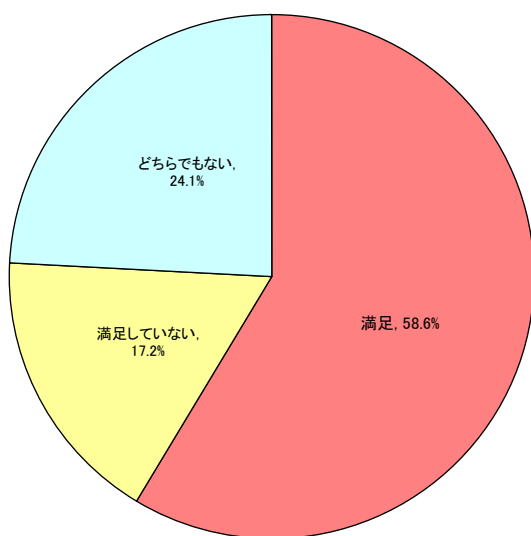
留学体験者最大の関心事は「語学力の維持」である。「語学のみ」の留学生がより維持の必要性を挙げている。【Q4】

唯一留学期間が「3ヶ月未満」の留学体験者はこれに該当しない。【Q12】

他には、「在学」生の悩みは「就職」に関するもの、「社会人(退職)」では「帰国後の再適応」が比較的多い。なお、「人間関係」、「留学費用の返済」、「日本語力の低下」の項目を挙げたのはほぼ学部生であった。【Q14】

Q38. 留学後の就職について、満足していますか。(1 つ選択)

(Q38-40 は留学後就職したと回答した 29 名のみ回答)【Q34】

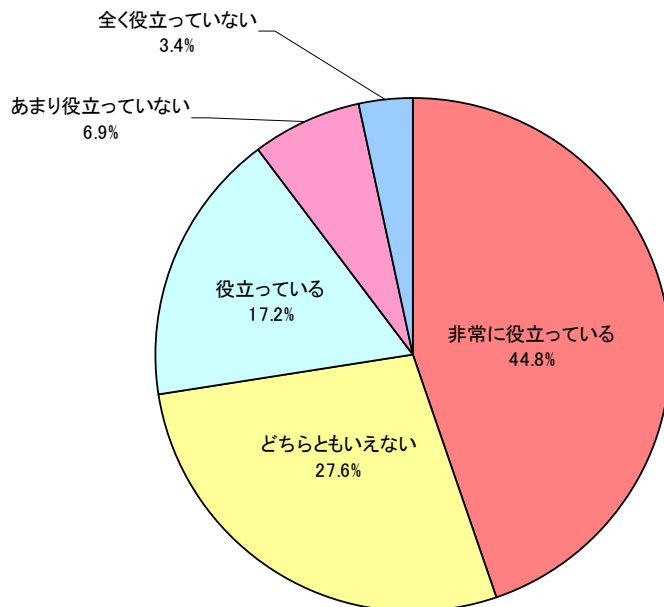


● 約 6 割が留学後の就職に「満足」

「留学期間」別では、「3ヶ月未満」の短期間の留学生と「2年以上」の長期間の留学経験者は全員が「満足」しているという回答である。「満足していない」と「どちらでもない」という回答は留学期間が「6ヶ月～1年未満」の者に集中していた。【Q12】

また、「留学の種類」別に見ると、「語学のみ」の留学生に「満足していない」、「どちらでもない」という回答が目立った。【Q4】
なお、「渡航中の、日本での身分・肩書き」別で見ると、学部生及び大学院生の半数が「どちらでもない」と回答している。【Q14】

Q39. 留学は、今の仕事に役立っていると思いますか。(1つ選択)



● 中国留学は職業に役立っているが約6割

「営業」、「事務」、「研究」、「専門・技術職」等の職種の29名が回答。【F5】

「留学期間」別では、「3ヶ月未満」の短期留学生と「2年以上」の長期留学生の回答は、「非常に役立っている」または「役に立っている」という回答のみだった。一方、「3ヶ月～6ヶ月未満」または「6ヶ月～1年未満」留学した回答者の半数が「どちらともいえない」、「あまり役に立っていない」、残り半数が「役に立っている」と答えており、同じ期間留学した者に回答のばらつきが見られた。

【Q12】

「留学の種類」別では、「学位取得の有無」を問わず、「専門コースのみ」を学んだ者全員が「非常に役立っている」と回答した。特に、「学士」や「修士(碩士)」を取得した回答者は全て「非常に役立っている」か「役に立っている」であった。なお、「語学のみ」の留学生の半数は「どちらとも言えない」、「あまり役立っていない」、「全く役立っていない」と回答しており、留学を仕事に活かされていないと感じている傾向が強い。【Q4】【Q6】【Q39】

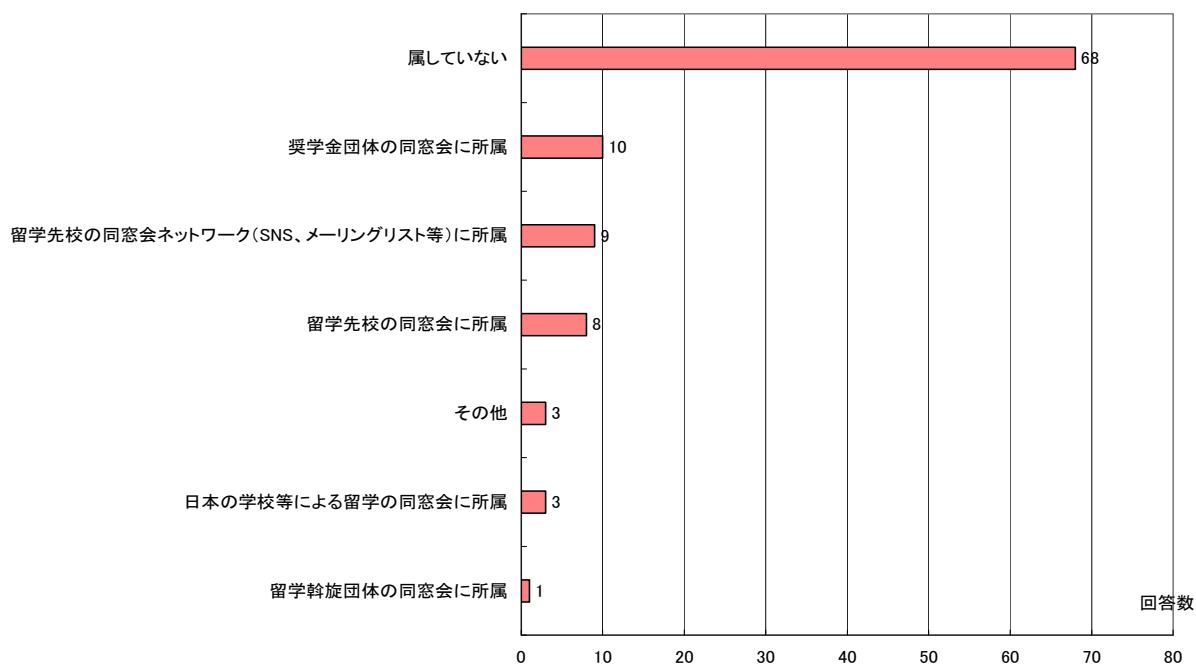
Q40. 以下の能力のうち、留学で培い、仕事にとくに役立っていると思うものをお答えください。(3 つまで選択)

語学力	18
異文化理解・活用力	12
チャレンジ精神	10
コミュニケーション能力	9
柔軟性	7
人脈	6
協調性	5
主体性	3
専門性	3
学歴	2
その他	3

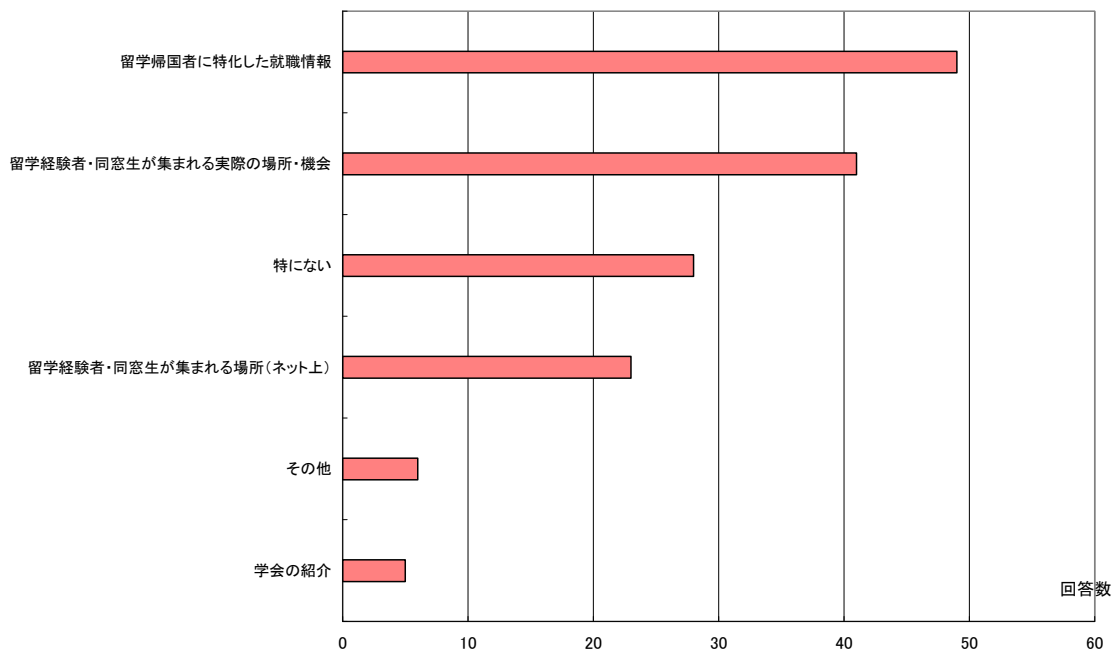
● 仕事に役立っているのは「語学力」、「異文化理解」、「チャレンジ精神」

Q41. 現在、留学の同窓会あるいはそれに準じたグループに所属していますか。(3 つまで選択)

(Q41-42 は留学を終了した 99 名の複数回答)【Q12】



Q42. 留学後のフォローアップとして、ほしい情報・サービスはどんなことですか。(3つまで選択)

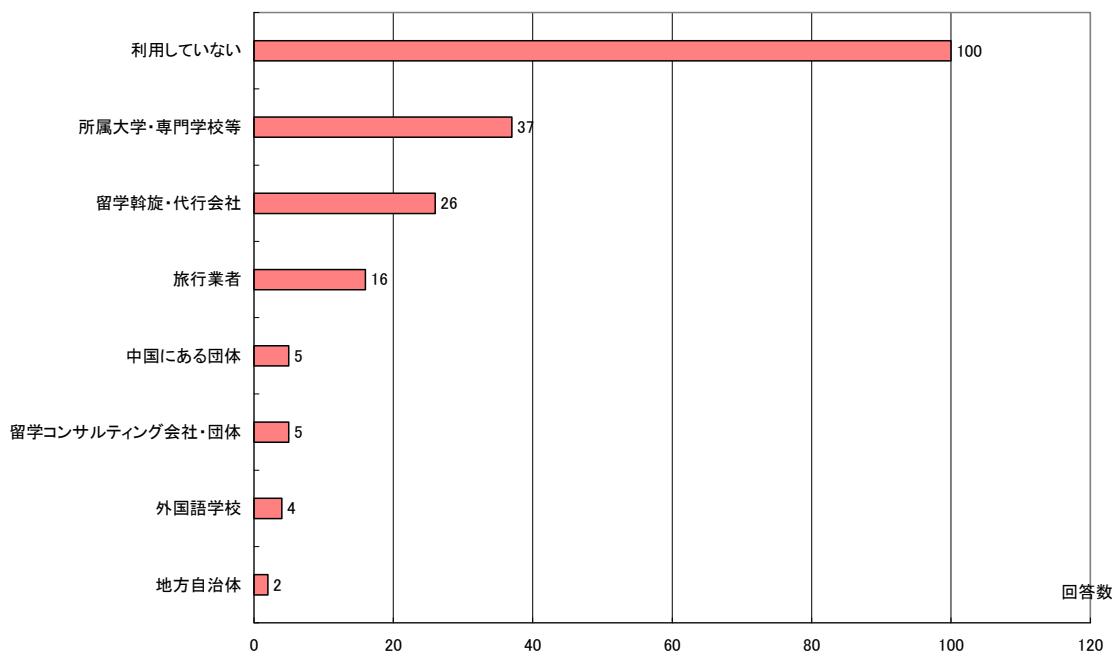


- 留学の同窓会等のグループに約7割が「属していない」ものの、そのニーズは高い
- 留学同窓会のグループには属さないが、終了後でも情報は必要？

何かしらのグループに参加している者は3割程度だが、「留学後のフォローアップとして、ほしい情報・サービス」を複数回答形式で尋ねたところ、「留学帰国者に特化した就職情報」(約5割)、「留学経験者・同窓生が集まれる実際の場所・機会」(約4割)、「特にない」(約3割)、「留学経験者・同窓生が集まれる場所(ネット上)」(約2割)であったことから、情報等を入手・交換できる機会が求められていることが窺い知れる。

なお、「語学のみ」の留学生も「留学先校の同窓会ネットワーク」や「留学先校の同窓会」と回答していることから、「学位取得者」以外でも積極的に留学先校の同窓会に参加できることが読み取れる。【Q6】

Q43. 留学に際して、以下のような団体等に手続きを依頼しましたか。(3つまで選択)



※留学斡旋団体: 留学に関わる学校選択(斡旋)、出願手続き代行、渡航手続き代行、事前オリエンテーション、留学前及び渡航先での相談対応などのサービスを行っている会社または団体。会社・団体によってサービス内容は異なる。

● 留学手続きを自ら行った者は全体の 5 割強

斡旋業者を「利用していない」というのは自分で留学手続きを行っていたと解釈されるが、その「留学中の肩書・身分別」の内訳では、社会人留学生(企業派遣以外)の 7 割強、また、「在学」中留学生の約半数が斡旋業者を頼らなかったようである。【Q14】
「留学の種類」別では、自ら手続きをした者は、「語学のみ」の留学で 5 割弱、「語学+専門」および「専門コースのみ」の留学生はそれぞれ約 7 割。【Q4】

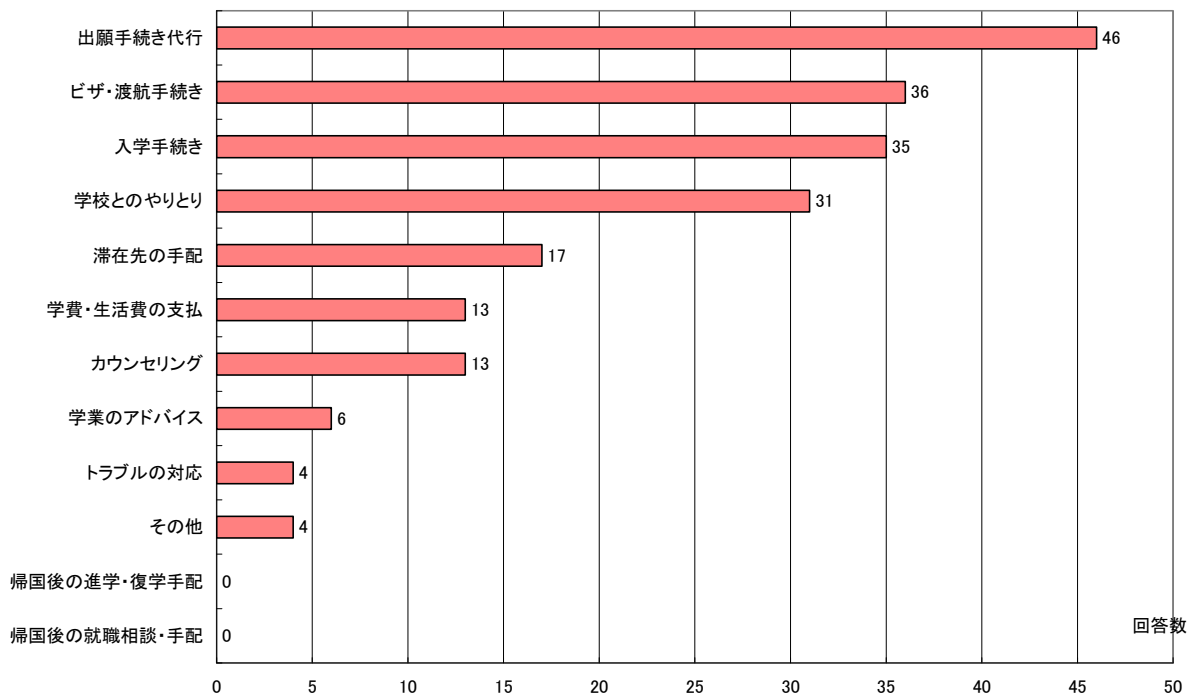
「留学斡旋・代行会社」のサービスを利用した者に関して、「学部生」がこれらのサービスを利用した割合が約 7 割弱と最も高く、その 5 割弱は「語学のみ」の留学を「6 ヶ月～1 年未満」した者であった。【Q4】【Q12】【Q14】

なお、自分で手続きをすることや留学斡旋業者の利用について、人任せにせず自分で情報を集めることについて、回答者からの代表的なコメントをまとめた。

詳しくは機構サイト(http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_chi.c.html#q43)に掲載している。>>

Q44. 【Q43 で「利用した」と回答した方に伺います】 その団体にはどのようなサービスを受けましたか。(3 つまで選択)

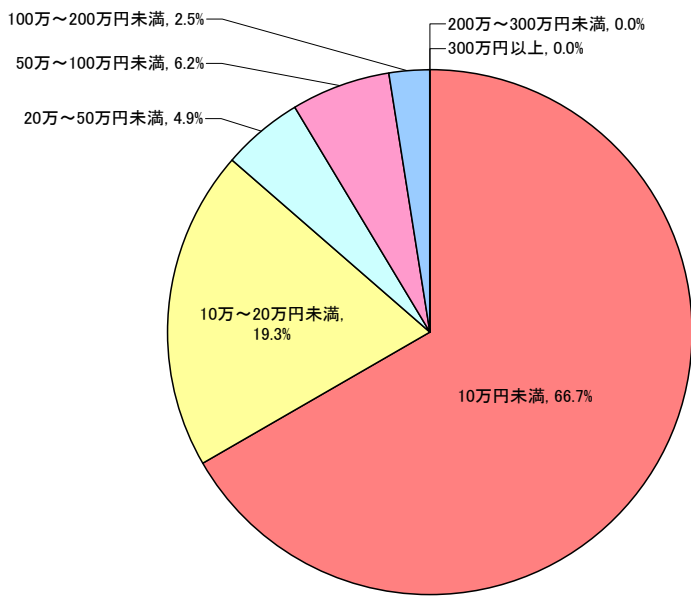
(Q44-47 は斡旋団体を利用したと回答した 26 名)【Q43】



● 「出願」や「ビザ」、「渡航」に関するサービスが上位

留学期間が「6 ヶ月～1 年未満」の者が代行サービスを利用している割合が最も高かった。「留学中の肩書・身分別」から見ると、留学扱いで渡航する大学生(「学部生(留学)」)が「私費留学(自費)」もしくは「交換留学」する際に、回答の上位 3 位である「出願手続き代行」、「ビザ・渡航手続き」、「入学手続き」のサービスを受けるケースが多く見られた。なお、帰国後にサービスを受けたものはいなかった。【Q3】【Q12】【Q14】

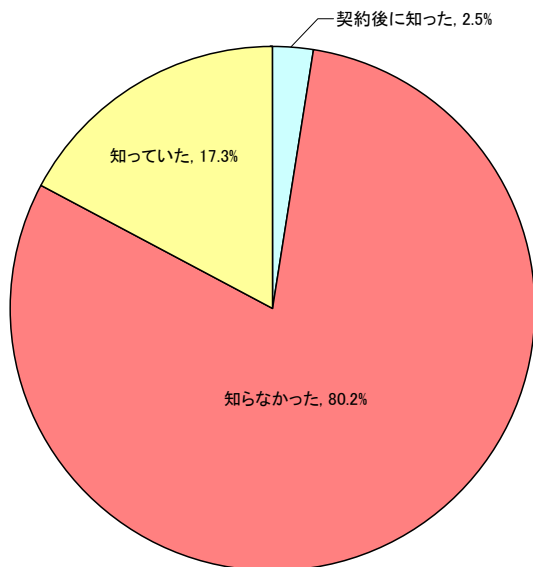
Q45. 留学斡旋団体に払った授業料・住居費以外の総費用(概算)をお答えください。(1つ選択)



● 斡旋業者に支払った総費用は、「10万円未満」が大部分

「留学形態」や「留学の目的」いかんに関わらず、代行機関へのサービス料として支払った金額は「10万円未満」が多かった。この回答者のうち特に多かったのは、「6ヶ月～1年未満」の「語学のみ」の留学生が10万円未満を支払ったという回答であった。50万円以上200万円未満の支払いをしている留学生は1割以下であった。なお、200万円以上支払った者はいなかった。【Q3】【Q4】【Q6】【Q12】

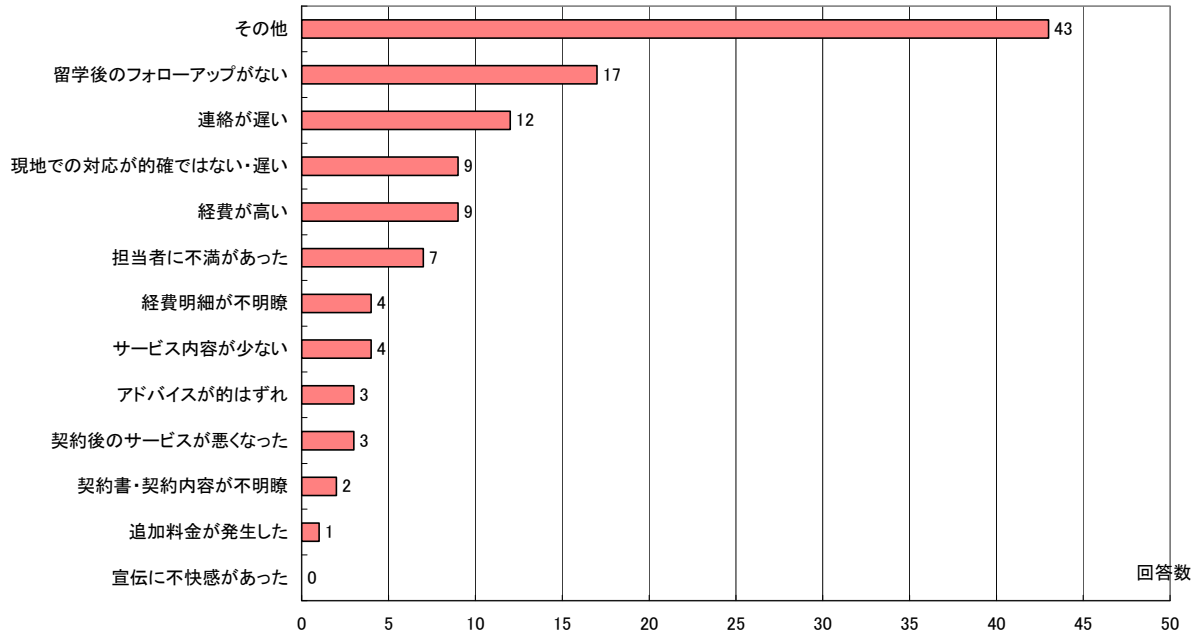
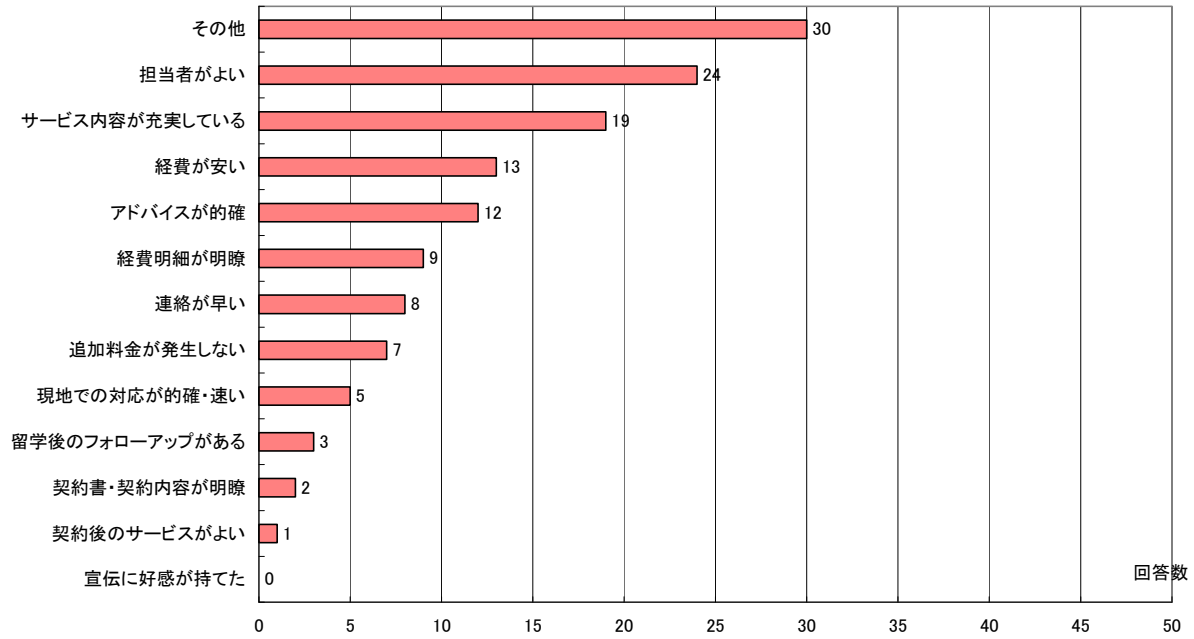
Q46. 留学斡旋業は許認可制でない(=留学先の紹介業・手続き代行業には国や都道府県の許認可や登録は必要ない)ことを事前に知っていましたか。(1つ選択)



● 「留学斡旋業は許認可制でない」事を知らなかったのは全体の約8割

特に、留学の手続きを「留学斡旋・代行会社」または「留学コンサルティング会社・団体」に依頼した者では、その9割が「留学斡旋業は認可制ではない」事を知らなかった。【Q43】

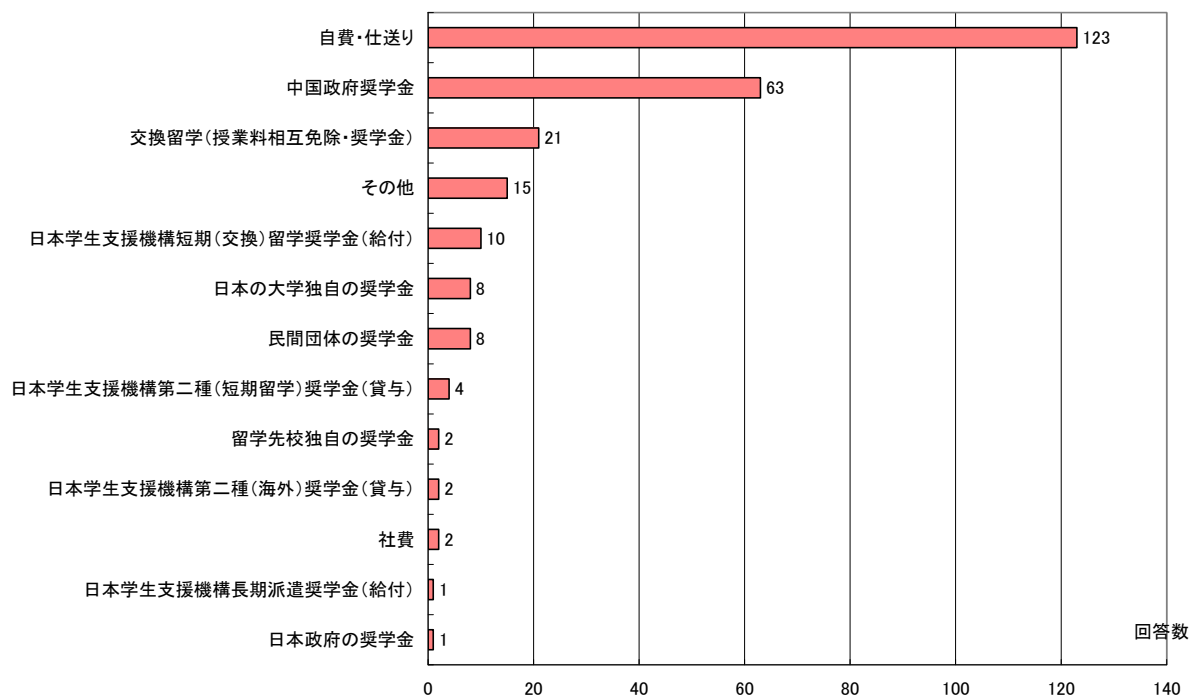
Q47. 利用した留学斡旋団体について、感想をお答えください。(3つまで選択)



● 留学斡旋団体に満足している理由は「担当者がよい」、不満の理由は「留学後のフォローアップがない」が比較的多かった。

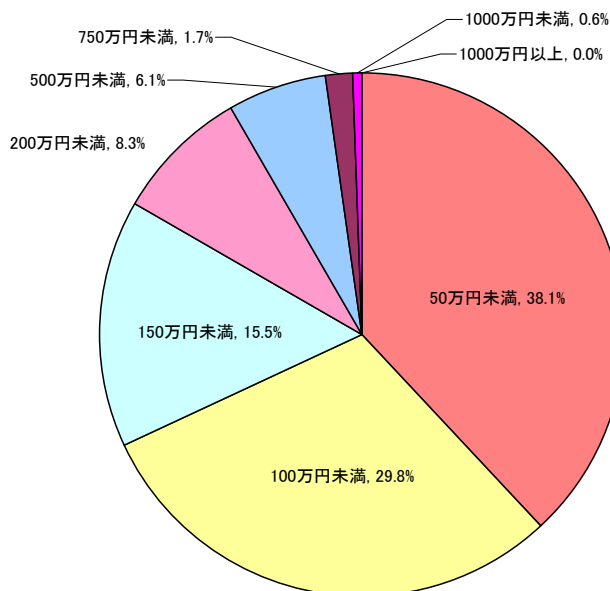
Q48. 留学資金調達はどのように行いましたか。3 つまで選択してください。

*日中友好協会・霞山会で募集する公費・給費派遣奨学金も「中国政府奨学金」に含まれます。



● 資金調達は、「自費・仕送り」との回答が多い。

Q49. 留学期間中実際にかかった総費用(学費・生活費・渡航費その他すべての経費、ただし日本の大学の学費等、新規の支払が免除になった経費は除く)は、およそいくらでしたか。留学当時の日本円に換算してお答えください。(1 つ選択)



● 留学の総費用

「語学のみ」の留学をした経験者については、「3ヶ月未満」の滞在の場合、「50万円未満」が5割強、「100万円未満」が4割弱であった。

また、「半年未満」の滞在の場合にも、「50万円未満」と回答した者が最も多かった。なかには「150万円未満」や「200万円未満」という回答もあった。なお、「6ヶ月～1年未満」滞在した回答者にばらつきが見られ、「50万円未満」が最多ではあったが、「私費

留学生(自費)」や「交換留学生」の場合は100万円前後が一般的のようである。【Q3】【Q4】【Q12】

「専門+語学」及び「専門コースのみ」の留学については、「6ヶ月~1年未満」の留学では、「政府奨学金留学生」の場合は「50万円未満」が最も多いが、「交換留学生」のおよそ7割、「私費留学生(自費)」の全員が「50万円以上200万円未満」と回答している。また、「2年~4年以内」の留学では、「私費留学生(自費)」で最も多かった回答は「500万円未満」、「政府奨学金留学生」では「50万円未満」であった。【Q3】【Q4】【Q12】

また、「本科(専門分野の本科)」「(正規コース)または「本科(漢語本科)」「(外国人コース)で「学士」を取得した者については、総費用「200万円未満」の回答が最も多く、「500万円未満」がそれに続いた。【Q6】

また、「6ヶ月~1年未満」滞在する場合、「政府奨学金留学生」では「50万円未満」が最も多く、「私費留学(自費)」は「100万円未満」と「150万円未満」がほぼ同数、「交換留学生」では「100万円未満」が圧倒的であった。【Q3】【Q12】

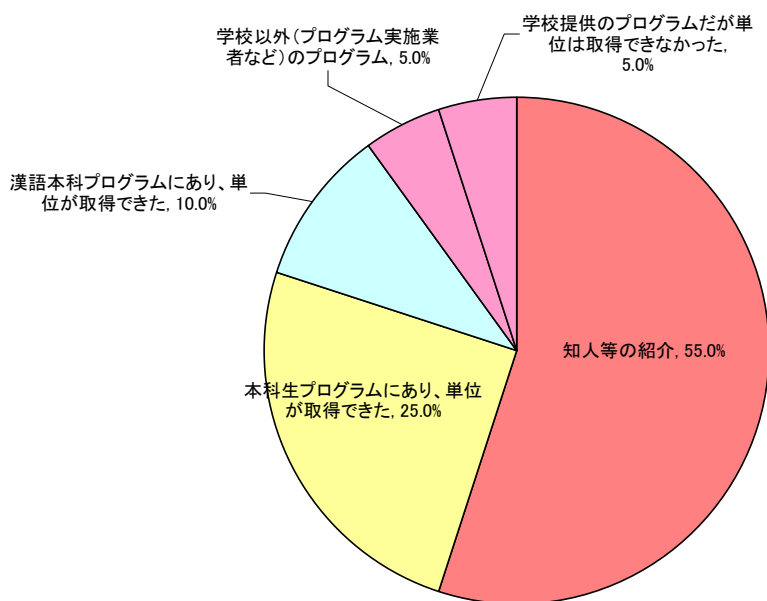
★定義

「50万円以上200万円未満」: 本問での「100万円未満」+「150万円未満」+「200万円未満」

Q50. インターンシップを経験しましたか。した場合、内容をお答えください。(1つ選択)

選択肢	度数	%
していない	161	88.95%
日系企業(事務)	5	2.76%
その他	4	2.21%
大学・教育機関	3	1.66%
日系企業(営業)	3	1.66%
中国企業(その他)	2	1.10%
日系企業(その他)	2	1.10%
中国企業(営業)	1	0.55%
中国企業(事務)	0	0.00%
公的機関	0	0.00%
不明	0	0.00%
全体	181	100%

Q51. (インターンシップをした方へ) 紹介・システムはどのようになっていましたか。(1つ選択)



● インターンシップ経験者は約1割(20名)

回答者の内訳は、「語学+専門」の留学をした者が8名、「専門コースのみ」の留学が7名、「語学のみ」の留学が5名である。

また、「半年以上」留学している場合にやや多い傾向がみられる。なお、インターン経験者のうち 11 名は「知人等の紹介」を通じてインターンシップ情報を収集したようである。【Q4】【Q6】【Q12】

★定義

『学部』のプログラムにあり、単位が取得できた』：本問での「本科生プログラムにあり、単位が取得できた」+「漢語本科プログラムにあり、単位が取得できた」

Q52. インターンシップの期間はどのくらいでしたか。(1つ選択)

1週間未満	1週間～ 2週間未満	2週間～ 1ヶ月未満	1ヶ月～ 2ヶ月未満	3ヶ月～ 6ヶ月未満	6ヶ月～ 1年未満	1年以上
3	3	5	2	4	2	1

Q53. インターンシップをした場合、1週間の平均労働時間をお答えください。(1つ選択)

1時間未満	3時間未満	5時間未満	10時間未満	20時間未満	20時間以上
1	5	1	10	1	2

- インターンシップ期間は約 7 割弱が「2ヶ月未満」平均労働時間は「週 10 時間未満」

インターンシップ実施期間を尋ねたところ、『学部』のプログラムに組み込まれており、単位が取得できた』回答者の場合、インターンの期間が 1ヶ月未満であった場合が最も多く、全体的にも 2ヶ月未満従事したケースが 20 名中 13 名と、短小型である傾向がみられた。【Q51】

インターンシップ経験者に 1 週間あたりの平均労働時間を尋ねたところ、その半数である 10 名が「5 時間～10 時間未満」と答え、次いで 7 名が「5 時間未満」の従事であった。

Q54. インターンシップでの平均収入を、留学当時の日本円に換算してお答えください。(1つ選択)

無給	時給 100 円未満	時給 500 円未満	時給 1000 円未満	時給 2000 円未満
10	2	5	2	1

- インターンシップは「無給」であることも少なくない

インターンシップでの平均収入に関しては、全体の半数が「無給」であり、「有給」であった場合に一番回答率が高かったのは「時給 500 円未満」(5 名)であった。『学部』のプログラムに組み込まれており、単位が取得できた』インターンシップでは有給の場合があるものの、単位取得の有無に関係なく、「知人等の紹介」を通じてのインターンシップは無給である場合が少なくないようだ。

★定義

「有給」：本問での「時給 100 円未満」+「時給 500 円未満」+「時給 1000 円未満」+「時給 2000 円未満」

Q55. インターンシップで問題はありましたか。(3 つまで選択)

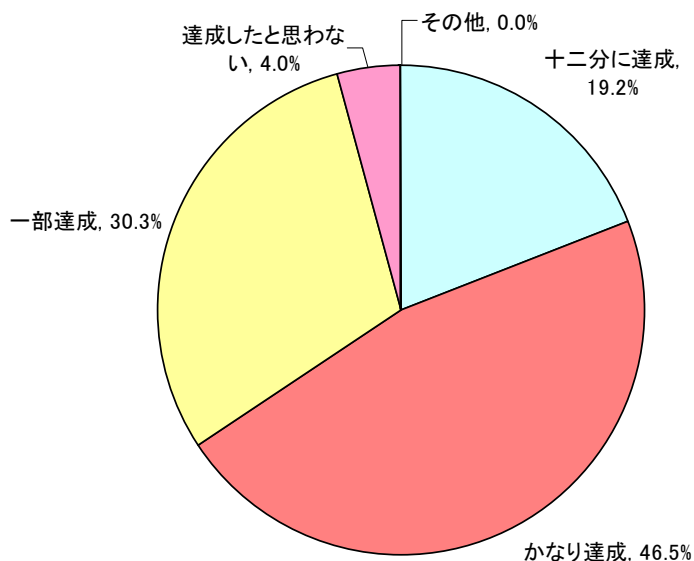
特にない	業務内容	語学力	給与	労働時間	人間関係	その他
8	6	4	3	3	1	1

- インターン時に問題は「特にない」が多く見られた

インターンシップ時に問題になったことを複数回答形式で尋ねたところ、「特になかった」と捉えている回答者が多く見られた。次

に挙げたのは「業務内容」で、その他「語学力」や「給与」、「労働時間」を挙げた者も少数いた。

Q56. 所期の目的や計画を達成したと思いますか。(1つ選択)



● 留学の目的達成度：7割弱が十分に「達成」

達成度が高い順から、「十二分に達成した」、「かなり達成した」、「一部達成した」、「達成したと思わない」の項目に分け尋ねた。「留学後」の達成度は、「留学形態」や「取得資格」を問わず、「かなり達成した」(5割弱)、「一部達成した」(約3割)と回答した者が多く、「十二分に達成した」と「かなり達成した」を合計すると、目的を十分に「達成した」と感じている者は6割強であった。

【Q3】【Q6】【Q12】

「留学期間」別では、滞在期間が短いほど「十二分に達成した」または「かなり達成した」という回答が多く、より達成感を感じている傾向が見られた。特に、「語学のみ」の留学で、「3ヶ月未満」滞在した場合の満足度が高い。対照的に、「半年以上」留学している者にすべてにおいて、「一部達成した」が「かなり達成した」を上回った。なお、「4年以上」滞在している者で「十二分に達成した」と回答した者はいなかった。【Q4】【Q12】

「留学終了後の進路」別では、「帰国して就職」や「帰国して進学」・「帰国して復学」した者など、全般的に「かなり達成した」の回答が多かった。【Q12】【Q34】【Q39】